

町制施行90周年記念
小山町町勢要覧 2002

おやま

美しき富士のふもと
人と自然との大いなる調和が
このまちにある。





発刊にあたって

小山町長 長田 央

私たちのふるさと・小山町は、先人が守り育ててきた富士山をはじめとする豊かな自然と、奈良・平安時代には東国往来の主要道路である足柄路があり、鎌倉時代には將軍源頼朝や日蓮上人などが宿泊したと言い伝えが残る、歴史に恵まれた美しいまちです。

活力にみちた「富士のふもと 人々のふれあう 心豊かなふるさと・おやま」の実現をめざす本町は、すべての町民が豊かで住みやすく、暮らしやすい、誇れるまちを築くため、さまざまな施策を総合的に展開しています。

この町勢要覧は、町制施行90周年の記念誌として、小山町の過去・現在・未来の姿をお伝えするため作成したものです。皆様にご高覧いただき、本町を理解していただく一助になれば幸いです。

Message

Our hometown of Oyama has Mt. Fuji and other abundant natural resources that have been protected and nurtured by our predecessors. This beautiful town possesses a rich historical legacy. In the Nara (710-794) and Heian (794-1184) periods, the Ashigara road served as the main thoroughfare for traveling from the western capital of Kyoto to the Eastlands. In the Kamakura period (1185-1332), the shogun Minamoto Yoritomo and the Tendai Buddhist monk Nichiren are said to have lodged here.

Our town is now striving to create a vigorous "Oyama Town, a friendly and caring hometown at the foot of Mt. Fuji." With this aim, we are comprehensively implementing various policies to build a pleasant and convenient town where all residents can live with pride and peace of mind.

In commemoration of the 90th anniversary of the incorporation of Oyama as a town, this Town Guide was compiled to introduce the past, present, and future images of Oyama. We hope that you will enjoy reading this publication and will thereby gain a deeper understanding of our town.

Hisashi Osada
Mayor of Oyama Town

まちのプロフィール

小山町は静岡県の北東端に位置し、北西端は富士山に達しています。富士山を頂点とした富士外輪状の三国山系と、北東方は丹沢山地、東南方は箱根外輪山に囲まれ、東西にのびています。河川は富士・箱根両山系を源とする鮎沢川が佐野川、須川、野沢川が合流して東へ流れ、酒匂川となっています。面積は136.13km²で、大きく小山・足柄・北郷・須走の4地域からなっています。

Profile of Oyama Town

Oyama Town is located in the northeast of Shizuoka Prefecture and its north-western part reaches Mt. Fuji. Extending from east to west, Oyama Town is surrounded by the Mikuni Range which forms the caldera of Mt. Fuji, the Tanzawa Mountains on the northeast, and the Hakone Gairin Mountains on the southeast. Originating in both the Fuji and Hakone mountains, the Ayusawa River flows eastward while converging with the Sano, Su, and Nozawa Rivers, and eventually becomes the Sakawa River. With a total area of 136.13 square km, Oyama is broadly divided into the four districts of Oyama, Ashigara, Kitago, and Subashiri.

CONTENTS

2 誌上展覧会 写真編／絵画編

[小山町総合計画]

6 富士のふもと 人々のふれあう 心豊かなふるさと・おやま

みんなで築くわたくしたちのまち（自治・まちづくり）

心あたたかな安心して暮らせるまち（健康・福祉）

次代を担う心豊かな人づくりと文化のかおり高いまち（教育・文化）

地域とともにすすむ産業のまち（産業）

豊かな自然環境を育む快適なまち（土地利用、生活・都市基盤）

18 地域別まちづくり計画

小山地域

足柄地域

北郷地域

須走地域

22 議会

23 おやま History

34 現代金太郎考

38 Oyama イベントカレンダー

40 おやま イラストマップ

44 おやまの特産品

別冊 Data Box (資料編)



美しい富士のふもと
新世紀 小山町の躍進が
いま、始まります。



小野 豊さん
(棚頭在住)

阿多野用水の源流はこの写真の布引滝と周辺の湧水です。今から300年以上前の阿多野地区には水がなく、村人が私財を投じて布引滝から隧道にて水を引き、肥料代わりに水菜を植えたことによって、この「水菜発祥の地」が誕生したそうです。そうした先人の苦労やまちへの思いを感じながらシャッターを押しました。岩からしみ出してくるこの滝の水はとても良質なので、よい水菜が育つのですね。

今度、富士スピードウェイがリニューアルされ、まちもずいぶん賑やかになることでしょう。先人が大切に守り育てたこのまちの良さを残しながら発展してほしいと思います。

阿多野用水の水源



町民のギャラリー

写真編

誌上展覧会

遠足のひととき



長谷川 正さん
(小山4在住)

富士山の写真展を観に行ったのがきっかけで写真を始めただけあって、私の被写体は富士山が9割を占めます。富士山に季節の花や人物をからめて撮ることが多いです。

お天気になると、良いポイントはないかと足をのばします。この写真も、そんな気持ちのよい日に、足柄峠まで行ってみたところ、賑やかなかわいらしい声に出会えたのです。とても幸運でした。

残念なことに、小山も少子化が進み、子どもの笑顔を見る機会が減ってきているように感じます。子どもからお年寄りまで、みんなが自然に挨拶を交わせるような「和」を大切にするまちになってほしいと思っています。



田代 実 さん
(茅沼在住)

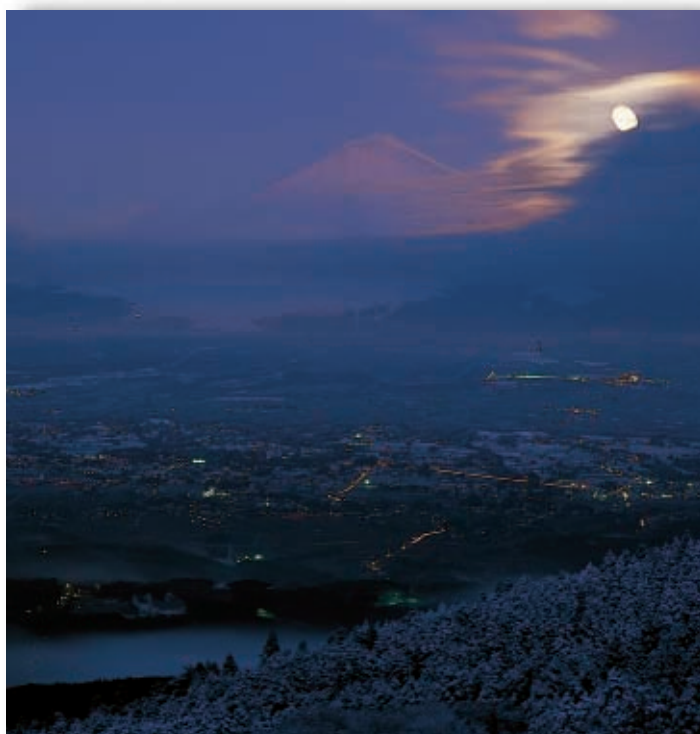
この写真は初秋の朝に撮りました。雲の切れ間から差し込む光が背景の森に透けて、神々しいまでの景色が生まれていたのです。こういった瞬間に巡り会えると、豊かな自然に恵まれていることを実感し、何とか今の姿を守り続けたいと強く思います。

普段は静かなまちですが、お祭りなどのイベントはもう少し盛大になってほしい気がします。町内だけでなく、町外からもたくさんの方々に来ていただいて、小山をもっとアピールしたいですね。それから、最近は生涯学習が定着し、色々な習いごとをする人が増えてきたので、本格的に展示できるスペースができればいいと思います。そうした場所がさらにコミュニティの和を広げてくれるのではないのでしょうか。

朝の斜光



月明かりの足柄峠



武藤 芳昭さん
(生土在住)

毎日、健康のためと撮影を兼ねて4時間ほどウォーキングをしています。歩きながら花や野草を撮っていると、休耕田の多さが気になり、ここに花を植えればさぞ美しいだろうに、と思うことがよくあります。今度、道の駅ができるそうですが、ここも単なる休憩施設ではなく、家族で来て自然を楽しんだり、周囲を散策しながら花を鑑賞できるような場にしてほしいですね。

この写真は2月の明け方、雪が止んだばかりの富士山を撮影しました。家を出た2時頃はまだまだかなり降っていて、この場所に着くのに苦労したものです。でも、この光景を収めることができたときは、うれしさのあまり、富士山に心から感謝を捧げましたね。



遠藤 和江さん
(谷戸在住)



昔ながらの、のどかな風景が好きで、よく絵にしていました。中でも金時山が大好きで、これを描くことは私のライフワークのようなものです。愛する郷土を、もっと多くの方に知ってもらいたい、そんな気持ちがふるさとをテーマに描き続ける原動力となっています。

小山は水が美しく、緑が豊かです。道路などの整備が進んで交通の便が良くなり、多くの方々に小山を訪れていただく機会が拡がりました。自然との共生を上手に図りながら、ほっとする風景をいつまでも守り続けていきたいですね。

町民のギャラリー

絵 画 編

誌上展覧会



長田 和子さん
(用沢在住)

明
け
ゆ
く
こ
ろ

小山は住んでみないと分からない、不思議な魅力を持ったまちです。時間や季節によって、表情が常に変化していくのを肌で感じながら描くようにしています。この絵は早朝の富士山をテーマに、うっすらとピンク色に染まりゆく様子を描きました。富士山が一番美しく輝いている一瞬であり、このまちで生きる幸せを感じた瞬間でもあります。

描きたいテーマを求めて巡りましたので、まちを隅から隅まで知ることができました。何と言っても、お水がおいしいんですよ。豊かな自然からの贈り物ですね。



Gallery



藤曲 涼子さん
(藤曲在住)

この絵は大胡田から見た冬の丹沢をテーマに描きました。春や秋のように華やかな色が一切なく、すべて寒色系で構成しました。実際に見たときの色調そのままを生かすのではなく、空の青さを少し抑え気味にするなど、バランスをとることが難しかったです。雄大な山々、澄んだ空気、清々しい水、これらの持つ透明感を感じていただけたとうれしいですね。

小山町は、もちろん富士山という飛び抜けた存在を持つ自然がありますが、それだけではありません。通勤の時でもカメラなどを持参して、描きたい風景に出会えるよう、常に準備しています。

春を待つ丹沢山系～大胡田より～



宮下 一三さん
(湯船在住)

橋の先にある建物は、旧役場庁舎です。このように私の作品は実際の景色に心象風景を織り込んだものが多いですね。小山は川から山へと至る、立体感のあるまちなので、構図的にとても描きやすいと思います。また、四季の変化が美しく、情緒がありますね。特に春はさまざまな色がまちを彩り、まるで魔法をかけられたような気分になります。

この美しさを損なうことなく、活力のあるまちを築くには、個性が必要です。どこにでもあるようなまちにだけはなってほしくないですね。この自然を後世に残してほしいです。

橋のある街



富士のふもと
人々のふれあう
心豊かなふるさと

お
や
ま



小山町総合計画

古くから山紫水明のまちとして静かに息づいてきた小山町も、経済情勢の変動、少子・高齢化、国際化などの影響を受けて、変革の時期を迎えています。

そこで小山町では、こうした時代の大きな変化を認識しつつ、二一世紀を展望した第三次小山町総合計画を策定し、諸施策を推進しています。

計画の策定に当たっては、すべての町民が暮らしやすいまちづくりを基本とし、町の将来像を「富士のふもと 人々のふれあう 心豊かなふるさと・おやま」と定めました。この将来像は、先人が守り育ててきた富士山をはじめとする豊かな自然や歴史を町の誇りとし、人と人、人と自然などのふれあいを通して、美しい自然を守り、快適な町民生活と特色あふれる文化を創造していくことを目標としています。

そして、その将来像に基づき、次の五つの基本目標を策定して諸問題に取り組んでいます。

1 みんなで築くわたくしたちのまち

(町民参加型のまちづくりの推進と創造力豊かな行政運営を確立すること)

2 心あたたかな安心して暮らせるまち

(生涯を通じた健康づくりと地域医療の充実や総合的な地域福祉のしくみづくりを推進すること)

3 次代を担う心豊かな人づくりと文化のかおり高いまち

(地域に根ざした学校教育の充実と心豊かな地域文化の創造を推進すること)

4 地域とともにすすむ産業のまち

(広域交通網の整備と新たな産業おこしや広域的な交流圏の形成を確立すること)

5 豊かな自然環境を育む快適なまち

(富士山をはじめ地域の自然環境を育むとともに史跡等歴史的環境を守り育むまちづくりを推進すること)

Oyama, a Friendly and Caring Hometown at the Foot of Mt. Fuji

While acknowledging major changes in the present times, such as fluctuating economic conditions, the falling birth rate, the graying population, and globalization, Oyama Town has formulated the "Phase III Oyama Comprehensive Plan" which gazes ahead into the 21st century. We are now pushing forward diverse policies according to this plan. The basic principle during elaboration of the plan was the creation of a town where all residents could live with convenience and safety, and "Oyama, a friendly and caring hometown at the foot of Mt. Fuji" was selected as the future image of our town. Our objectives are to preserve the superb natural environment, promote pleasant and enjoyable civic lifestyles, and create a local culture that is rich in distinctively local characteristics.



宿場まつり



みんなで築く わたくしたちのまち

みんながまちづくりに参加し、
手と手をたずさえて
特色あるまちづくりを
進めていきましょう。



中学生が老人ホームを訪問

Self-Government and Town Development

To create communities where each resident can lead fulfilling lives with peace of mind, Oyama Town has joined hands with its residents to promote the development of neighborhood communities by stimulating greater social interaction and mutual assistance in each locale. Oyama actively encourages participation in traditional events and in community activities related to environmental preservation, culture, sports, and welfare. By making municipal information available to the public, conducting publicity aimed at the residents, and holding open assembly sessions, Oyama hopes to deepen the residents' understanding of town development activities and raise their civic awareness.



男性料理教室でそばづくり

左から 長田央町長、岩田功助役、高橋宏収入役、岩田正憲教育長



いいまちづくり隊

小山町では、だれもが安心していきいきと暮らすことができる地域社会を実現するために、町民のみなさんと手をたずさえて、地域におけるふれあい・助け合いを通しての地域コミュニティの充実を推進しています。そのため、伝統行事への参加や、環境、文化、スポーツ、福祉などの地域活動を積極的に促進しています。

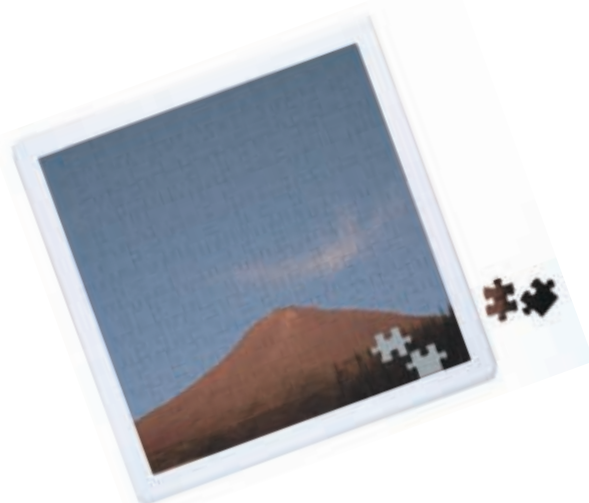
また、町民が個人の尊重と協力・協調の大切さを学ぶ機会をつくるとともに、情報公開や広報広聴活動を通じて町民にわかりやすいまちづくりを理解していただき、参加意識の高揚にも努めています。あわせて、町民と行政が、まちづくりについての共通認識を持てるよう、適正な役割分担のもとで、行政や地域活動の様々なプロセス



役場窓口

への参加を促す体制を整備しています。まちづくりの重要な担い手となるボランティアや特定非営利組織（NPO）についても、その育成、活動の支援を行っています。さらに、男女が共に地域の発展に寄与できることはもちろん、障害者や高齢者などが等しく個人としての能力を十分発揮していきいきと過ごせるよう、町民参加型のまちづくりを推進しています。

小山町では、今後とも複雑、多様化する町民ニーズに応え、先見性を持った創造的な地域づくりを推進していきます。そのため、行政の政策企画能力や調整能力の向上を図り、柔軟で合理的な推進体制の確立に努めていきます。



富士のふもと

人々のふれあう

心豊かなふるさと・おやま



町の老人連合会

健康
福祉

心あたたかな 安心して暮らせるまち

だれもが健康で安心していきいきと
過ごすことができるよう、
心と体の健康づくりと
福祉の充実に取り組んでいます。



福祉巡回バス

Health Care and Welfare

Oyama Town trains community health leaders and works to invigorate their activities so that each and every town resident can take the initiative in his and her own health care. In order to enhance local medical structures, we are also striving to establish a system that integrates health care, medical care, and welfare services, such as health maintenance, health promotion, preventive medicine, medical treatment, and rehabilitation. In particular, to meet the growing and diversifying welfare needs of senior citizens, we are striving to properly administer a senior-care insurance system and to develop a local welfare structure.



子ども相撲大会（金太郎春まつり）



シルバー人材センターによる炭焼き



ペンギンランド



車椅子体験コーナー（ふれあい広場）

「自分たちの健康は自分たちでつくる」を基本に、町民一人ひとりが自主的な健康づくりを実践できるよう、地域健康づくりリーダーの育成とその活動の活性化を図っています。また、健康の保持増進、疾病予防、治療、リハビリテーションなど、保健・医療・福祉の関係機関との連携による一貫した健康づくり支援体制を確立し、積極的な予防医療活動など、地域医療体制の充実に努めています。

福祉については、ユニバーサルデザインの理念の普及と地域における相互扶助の啓発・参加を積極的に推進するとともに、子どもからお年寄りまでそれぞれの段階に応じて、きめ細かなサービスを提

供するために、健康福祉会館を拠点とした保健・医療・福祉の連携システムの確立に努めています。特に高齢者福祉については、増大・多様化する福祉需要に対応するため、介護保険制度の適正な運用を図るとともに、地域福祉体制の整備や生きがい対策などの充実に努めています。

また、地域における健康づくりやきめ細かな福祉行政の推進には、ボランティア活動やNPO事業の積極的な支えが必要のため、小山町ではこうした活動に参加してもらうために、学校教育や生涯学習を通じての人材の育成・発掘活動を促進しています。



富士のふもと

人々のふれあう

心豊かなふるさと・おやま



ALTによる英語の授業（小山中学校）

教育
文化

次代を担う 心豊かな人づくりと 文化のかおり高いまち



町民文化祭

明日を担う人材の育成と
豊かな文化の創造をめざし、
地域に根ざした人づくりや
文化活動を支援しています。

Education and Culture

With the aim of accommodating the increasingly diverse and sophisticated educational needs of town residents, we are making efforts to build a lifelong learning society where everyone can easily study at each stage of life. To protect and nurture our homeland, blessed with numerous natural blessings, we are striving to cultivate people who appreciate the importance of our natural environment and will actively engage in town development from the perspective of maintaining harmony between people and nature. Efforts are being made to efficiently utilize municipal facilities—including the Lifelong Learning Center, schools, and public halls—and to promote multifaceted education and cultural activities that respond to the needs of the townspeople.



国際姉妹都市カナダ・ミシオン市との交流

小山町では、多様化、高度化する町民の学習ニーズに対応するため、だれもが生涯にわたって気軽に学習できる生涯学習社会の実現をめざしています。そのため、拠点の生涯学習センター、学校、公民館などの施設の有効利用を図り、地域、環境、文化、情報、福祉などの分野にわたる学習機会の拡充に努めるとともに、社会教育活動を支援するなど、町民ニーズに対応した多面的な学習文化活動を推進しています。また、豊かな自然に恵まれた郷土を守り育てていくため、その環境の大切さを認識し、「共生」の視点からまちづくりに積極的に取り組む人材の育成に努めています。さらに、町民だれもが気軽にスポーツ・レクリエーション活動を楽しめるように、施設の整備充実を図るとともに、指導者や各種団体の育成、イベントの開



町民ゴルフ大会

催なども推進しています。学校教育については、基礎学力の向上はもとより、豊かな心と創造力やたくましさを育て、明日の地域社会の担い手として貢献しようとする意識や国際交流などの新しい時代に対応できるよう、その能力の育成に努めています。さらに町では、家庭、学校、地域が相互に連携し、協力し合うしくみづくりを推進しています。これは、それぞれの持つ教育的機能・作用を高めるとともに、子育ての負担軽減や質的向上をめざしたものです。



パソコン教室



町民文化祭

富士のふもと

人々のふれあう

心豊かなふるさと・おやま





特産の水掛菜の摘み取り

産業

地域とともにすすむ 産業のまち

既存産業の高度化、高付加価値化、
企業誘致やふるさとおこしなど、
特色ある地域産業の
振興を推進しています。



小山町釣大会

Industry

To promote the emergence of new industries, Oyama Town collaborates with local firms, associations, and other organizations so as to actively encourage the exchange of ideas between such different sectors as agriculture and forestry, industry, commerce, and tourism. In addition, we will work to promote local industries on the premise of better traffic access in the future. We are also creating new forms of agricultural tourism (such as "green tourism") and services, conducting research and development to offer distinctive local specialties, and holding various events aimed at invigorating community life.

富士スピードウェイレース場 リニューアルへ！

モータースポーツの草分け的存在である富士スピードウェイは、数々の国際レースの舞台となった歴史と伝統あるサーキットです。

今回の全面リニューアルは、単にレース場としての機能を超え、いつ訪れても家族で楽しめる21世紀型

アミューズメント施設をめざして行われます。

町では、地域の活性化につなげていくためにも、町民に親しまれ、町民が誇れる小山町の顔となる施設になるよう、様々な形で協力していきます。



サツマイモ収穫体験

活力ある豊かな地域を創造していくためには、まちの特性を生かした新たな産業おこしをめざしていかなければなりません。そのため小山町では、まず地域の企業や団体等と協力し、農林業や工業、商業、観光などの産業間の交流を支援することとしました。あわせて、今後の交通条件の向上などの効果を踏まえて、地域産業の振興に努めるとともに、グリーンツーリズムなどの新しい観光農業、サービス業の創出、地域特産品の研究及び開発、さらに地域活性化を促すイベントの展開などを推進しています。

農業については、農産物の安定した供給を促進するため、農業生産基盤の整備や農地の流動化を進めるとともに、農業経営の近代化に努めています。林業についても、経営の安定化に向けて林道網など

の生産基盤の整備を図るとともに、森林組合の強化や活動団体の育成、地域材の活用などを積極的に推進しています。

工業については、中小企業団地の整備のほか、広域交通網の整備や水資源等を生かした計画的な工業団地の整備を行い、企業の立地誘導に努めています。商業については、商工会活動の活発化と観光をはじめとする各種産業間の連携を図り、地域の特性に応じた商業の活性化を推進しています。

観光については、富士山や足柄峠など豊かな自然と歴史的な資源を生かした魅力ある広域交流圏の形成に向けて、新しい観光拠点の整備や新しい観光ルート等の整備を推進しています。



商工祭・産業祭

富士のふもと

人々のふれあう

心豊かなふるさと・おやま





地域防災訓練

土地利用
生活・都市基盤

豊かな自然環境を 育む快適なまち

自然や歴史的環境を守りながら、
すべての人たちが安心して
快適な生活をおくれるよう
魅力あるまちをめざしています。



ニジマス放流

Land Utilization and Urban Infrastructures

So that Oyama's natural splendor and historical environmental can be passed on to future generations, we are striving toward land development and preservation from the perspective of harmonious co-existence between people and nature. Moreover, with the aim of preserving the global environment, we promote conservation campaigns that target areas familiar to the residents, including movements to reduce garbage, encourage recycling, clean rivers, plant trees, and so forth. We are also making efforts to form an agreeable residential space by promoting the supply of high-quality housing and housing lots and by developing and enhancing such urban infrastructures as neighborhood parks, sewage systems, and roads.

道の駅「ふじおやま(仮称)」 平成16年度後半オープン!

国土交通省と小山町は、道の駅「ふじおやま(仮称)」を国道246号の用沢地先に建設します。テーマは「水と緑・みくりやの里」で、主に駐車場、トイレ、物品販売所、食堂、公園、農産物加工施設などを設置する予定です。

また、施設全体にバリアフリーを取り入れるなど、誰もが安心して使える施設づくりをめざすとともに、道路利用者に町をアピールすることによって、活力ある地域づくりの拠点となることを期待しています。



道の駅完成予想図



町民によるリサイクル活動



植樹(東海道400年祭)

本町の恵まれた自然や歴史的な環境・景観を次代に継承していくために、人と環境との共生という視点に立ち、動植物の生態や歴史的要素を考慮した開発と保全に努めています。あわせて、地球環境問題も視野に入れ、ごみの減量化やリサイクル運動、河川の清掃、緑化活動など、町民主体による身近な環境の保全運動を促進しています。さらに、良質な住宅・宅地の供給を促進するとともに、身近な公園や下水道、道路等の生活基盤施設の整備充実を図り、快適な生活空間の形成に努めています。

土地利用に関しては、秩序ある都市の形成と持続的な発展をめざし、町民参加をもとに長期的な展望にたつて都市計画マスタープランを策定し、計画的な利用を推進しています。

市街地整備については、第二東名自動車道の建設や町内幹線道路の整備等の進捗状況を考慮し、土地区画整理事業や地区計画等を活用しながら整備に努め、にぎわいのあるまちづくりを推進しています。



須走口5合目公衆トイレ



グリーンシャワーロード散策



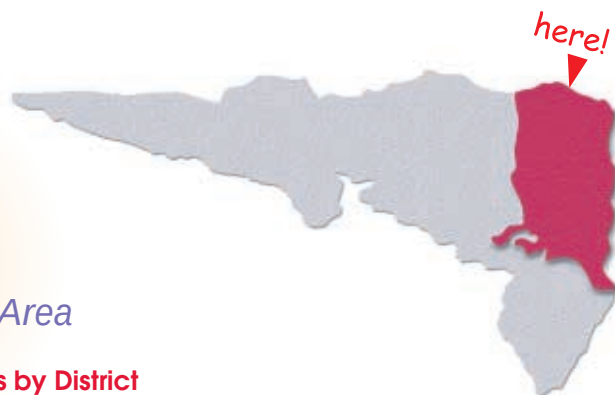
富士のふもと

人々のふれあう

心豊かなふるさと・おやま



小山地域



にぎわいの再生と、
やさしさに満ちた暮らしを育むまちづくり

OYAMA Area

紡績のまちとしての歴史を持つ小山
地域は、行政及び産業の中心的な役
割を担っています。

Town Development Plans by District

Development that restores prosperity and nurtures lifestyles brimming with kindness

The Oyama District, historically known for its spinning industry, plays a central role in municipal administration and industry.



足柄地域



足柄の歴史が息づく暮らしと、
もてなしのまちづくり

旧足柄街道の宿場町である足柄地域は、歴史的資源を生かした街並みの修景化を進めるとともに、健康と観光に配慮したまちづくりを進めています。

ASHIGARA Area

Daily Life Infused with the History of Ashigara and Hospitable Town Development

Ashigara was once a relay station along the former Ashigara Thoroughfare. As a result, the Ashigara District is restoring the traditional streetscape that makes use of historical resources and is proceeding to create a district that is conscious of promoting health and tourism.



北郷地域

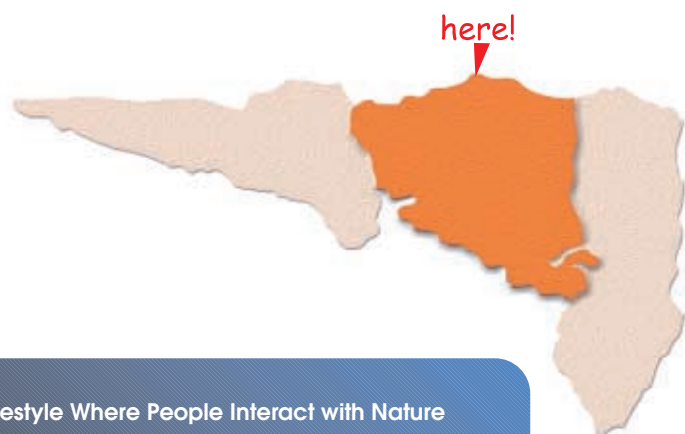
人と自然がふれあう、
ゆとりある豊かな暮らしづくり

町のほぼ中央にある北郷地域は、良
好な住宅地が整備され、町の農業生
産の中心となっています。

KITAGO Area

A Relaxing and Affluent Lifestyle Where People Interact with Nature

Located in the approximate center of the town, the Kitago District is developing an attractive residential zone and forms the hub of Oyama's agricultural production.





須走地域



富士の歴史を継承し、
新たなふれあいを創造するまちづくり **SUBASHIRI Area**

富士登山の玄関口として知られる須走地域は、道の駅の整備や陸上自衛隊の地域交流の促進など、新しい交流を創造する地域づくりを進めています。

Development that Inherits the History of Fuji and Creates New Bonds

Known as the starting point for climbing Mt. Fuji, the Subashiri District is proceeding with development that will create new opportunities for social interactions, such as the development of a roadside station, events to promote more local interaction with members of the local branch of the Ground Self-Defense Forces, and so forth.



議

Town Council

会

小山町議会は十九名の議員で構成され、年に四回開かれる定例会と、必要に応じて開かれる臨時会があります。そこでは、予算をはじめ、町政に必要な条例の制定や改廃などの重要事項が審議・検討・決定されています。

また、議会の運営を円滑に進めるために、総務、経済、文教厚生といった三つの常任委員会が設けられ、専門的な審議が行われています。重要課題については、必要に応じて特別委員会が設置されることもあります。

小山町議会では、町民の声を反映し、町の発展をめざして努力を重ねています。



左から 白井正議長、高田静雄副議長

平成17年6月2日から、議長は室伏武氏、副議長は真田勝氏です。

The Oyama Town Assembly consists of 19 members who convene regular quarterly sessions each year and, whenever necessary, extraordinary sessions. During these sessions, the assembly members deliberate, review, and decide important matters of municipal government, such as budget planning, the enactment, revision, or abolition of ordinances, and other duties. Moreover, to ensure the smooth operation of the assembly, specialized deliberations are carried out by three standing committees: General Affairs, Economics, and Culture, Education, and Welfare. Special committees may also be formed as necessary to deal with priority issues. The Oyama Town Assembly works hard to heed the opinions of town residents while promoting development of Oyama.

雄大な富士の裾野に広がる小山町。
富士は、この麓に暮らす私たちに
移ろいゆく四季を通じて
さまざまな姿を魅せてくれる。
しかし、歴史の途上では、
人々に試練を与えた山でもあった。
先人たちが、苦難を乗り越えて
今日の繁栄を築いてきた歴史が、
この町には刻まれている。
小山町が誕生してから九十年
この機会に、その足跡を辿りたい。

おやま History ストーリー



原始・古代

富士の噴火で堆積したローム層の下に
秘められた古代のロマン。
律令制のもとで記された古代小山の地名は、
駿河国駿河郡横走郷。

小山町に人が暮らしはじめた頃

日本列島で人々の暮らしが定着し、石器や骨角器などを生活用具に使用した旧石器時代は、今から約一万年前に終わりましたが、現在まで小山町域からは、この時代の遺跡・遺物は発見されていません。

その理由は、富士山からの噴出物によるローム層の堆積が数メートルにも及んでいるため、遺跡や遺物を発見できる機会がないためです。

縄文時代に入ると気候も温暖になり、森林も広がっていきます。人々は木の実を採取したり、動物を捕獲して食糧とするとともに、生活用具として土器を使うようになります。

小山町で発見された最も古い遺物は、柳島地区の沼子遺跡から出土した楕円押型文土器です。この土器は、約七千年前の縄文時代早期のものと推定されており、この頃には小山町域で人々の暮らしが営まれていたことが確認できます。

縄文中期になると、御園遺跡や上野奥の沢遺跡、柳島遺跡、新見堂遺跡などの調査から、比較的大きな集落があったことがうかがえます。

大陸から伝わった稲作が広まった弥生時代には、人々は水田耕作に適した土地に定住するようになります。

稲作の発展で、これまでよりも食糧は安定供給されるようになり、共同作業や貧富の差が発生することで、地域の人々を統治したり支配する豪族と呼ばれる権力者も出

てきます。

この豪族の墓が古墳と呼ばれるものですが、小山町域ではまだ発見されていません。なお、古墳時代の遺物としては、上ノ原遺跡や滝ノ沢遺跡から土師器の杯などが発見されています。

足柄峠越えの起点 横山遺跡

足柄峠から見下ろす竹之下の台地には、県立小山高校の敷地内の横山遺跡と、その南に隣接する上横山遺跡があります。この集落跡は、昭和五十八年（一九八三）に大規模な発掘調査が行われ、古墳時代後半から平安時代後半の竪穴式住居や、掘立柱建物跡などがあつたことが確認されています。

二つの遺跡とも、古代東海道に面しており、足柄峠を控えていることから、古代の地域性、交通面から重要な位置にあつたものと考えられます。

律令制とともに駿河国に所属する

古墳時代から奈良時代にかけて各地で勢力を強めた豪族は地域の支配を強め、やがて国と呼ばれる小国が形成されます。その後、これらの国は中央集権に属すようになり、律令制が始まります。

この時代は行政区分として国の下に郡（評）と郷（里）が置かれ、小山町を含む周辺地域は、駿河国駿河郡横走郷に所属することになります。

横走の地名が確実な史料に登場するのは、貞観六年（八六四）の『日本三代実録』で、古代東海道の駅が設けられていました。

①横山遺跡全景 ②深鉢形土器（大尾根遺跡出土） ③富士浅間神社



②



①



③

中世

征夷大將軍となった源頼朝は、富士の裾野で大規模な巻狩を挙行。
南北朝の内乱期には、竹之下が合戦の舞台となる。

伊勢神宮の荘園・大沼鮎沢御厨

平安時代の後期には、小山町域にも大沼鮎沢御厨という伊勢神宮の荘園が成立していました。御厨という名称は、神に供える供祭物を献納するということから付けられたものです。

なおこの荘園の開発者は、伊勢神宮が直接開発した可能性や、葛山氏や大森氏の先祖たちの名がとりざたされていますが、それを立証する確かな史料は見つかっていません。

鎌倉幕府の成立と狩倉

荘園が経営されていく中ではいさかいいも起こったため、戦闘を本職とする者が現れ、後に武士と呼ばれるようになりました。平安時代後期には朝廷と密接な関係を持った平家が実質的な支配者となりましたが、源氏により滅ぼされ、その総大将であった源頼朝が鎌倉に幕府を開き、武家社会による政治に移ります。

頼朝は、鎌倉に幕府を開き、征夷大將軍として武士による政治が始まります。

頼朝は建久四年（一一九三）五月に富士の裾野で、大規模な狩を行います。これが有名な富士の巻狩で、小山町域もその舞台となったことが想像されます。幕府が巻狩を行う場所は狩倉と呼ばれ、各地に存在するようにになりました。この地方の狩倉は藍沢の狩倉と呼ばれています。

足柄路と竹之下宿

足柄路は、古代から多くの旅人が往来し、

駿河国と相模国の国境である足柄峠を控え、関も設けられていました。

鎌倉時代以降、足柄路には竹之下宿が開かれ、建久元年（一一九〇）十二月に頼朝が上洛の帰路に宿泊した記録が『吾妻鏡』に記されています。

南北朝の内乱期と竹之下の合戦

鎌倉幕府も末期になると政権内の腐敗や権力抗争などで機能しなくなり、後醍醐天皇は朝廷へ政権を取り戻そうとします。しかし、朝廷内でも権力抗争が続いていて、国内を二分する南北朝の内乱期となります。足利尊氏を中心に武士たち勢力を集めた北朝と、後醍醐天皇を擁立した南朝と、二人の天皇が鼎立する時代です。

建武二年（一三三五）十二月十一日、足柄峠から攻め下った足利尊氏軍と、鮎沢原に陣を敷いた尊良親王・二条為冬・脇屋義助らの軍が竹之下で衝突しました。竹之下の合戦と呼ばれるこの戦いは、足利方の勝利に終わります。

大森氏から葛山氏の支配へ

南北朝の末期あたりから室町時代にかけての駿東地方は、大森氏や同族の葛山氏の勢力下にあったようです。特に小山町域では、生土の乗光寺、小山の正福寺、中島の勝福寺がそれぞれ大森氏の関係者が創建したと伝えていることから、大森氏の支配下にあったと考えられています。大森氏はその後、箱根山を越えて西相模に勢力を伸ばし、小田原に城を築きますが、明応四年

（一四九五）北条早雲の攻撃により滅亡することになります。

大森氏滅亡後の駿東地方は北条氏、その後葛山氏元の支配を受けます。しかし、永祿十二年（一五六九）、武田信玄の今川攻撃に呼応して今川方から武田方についた葛山氏元も、しばらくして信玄により処刑されます。武田と北条の接点となった小山町域は、その後何度か合戦に見舞われました。

天正十八年（一五九〇）、豊臣秀吉による小田原攻めで北条一族は滅亡し、秀吉の家臣であった中村氏が駿府城に入ると、この地方も中村氏の支配下となります。

①足柄城絵図部分（小山町 小山五十戸共有所蔵）

②大雄山宝鏡寺木造地藏菩薩立像



江戸時代

世の中の安定とともに、阿多野や上野などで新田開発が進む。
宝暦の富士山大噴火で、小山町域は壊滅的な被害を受ける。

江戸時代の村々と新田開発

関ヶ原の戦いで勝利を納めた徳川家康は、慶長八年（一六〇三）に江戸で幕府を開き、長く続いた戦乱の世は終わります。

江戸時代ははじめの小山町域は、めまぐるしく領主が代わり、寛永十年（一六三三）小田原藩主稲葉氏の時代になり、以後は宝永の噴火まで小田原藩と、その支藩の支配を受けることとなります。正保四年（一六四七）と翌慶安元年には検地が行われており、小山村、菅沼村、竹之下村、上野村、須走村など、小山町域には二十五の村の名を見ることが出来ます。

江戸時代には各地で新田開発が盛んに行われましたが、小山町域でも寛文十二年（一六七二）に阿多野新田が開かれ、その後、上野新田などの開発も行われています。

宝永四年の富士山大噴火

これまでも富士山は、大小の噴火を何度も繰り返してきましたが、宝永の大噴火は、古代から現在にいたるまで最大規模のものでした。

この大噴火が起こったのは、宝永四年（一七〇七）十一月のことです。南関東一帯に降砂が降りました。特に小山町域は、死者の記録こそありませんが最大の被災地で、須走の三メートルを筆頭に、すべての村々が六十センチ以上の石砂に埋め尽くされました。

幕府も被害を受けた村々に救援金を出し、失った人々は離村する者も多く、復興まで

には長い年月を要しました。

幕末の小山地方

嘉永六年（一八五三）にペリーの率いる艦隊が浦賀に来航し、開国を迫りました。一方、国内でも長州や薩摩藩などによる朝廷へ政権を戻そうとする倒幕運動が起こります。最後の將軍となった徳川慶喜は、慶応三年（一八六七）に大政奉還を行います。翌年には戊辰戦争が勃発、国内は内戦状態となります。

駿東地方でも、沼津や小田原などで幕府軍と官軍との戦闘があり、東進する官軍が竹之下に宿泊したり、人馬を徴用した記録が残っています。

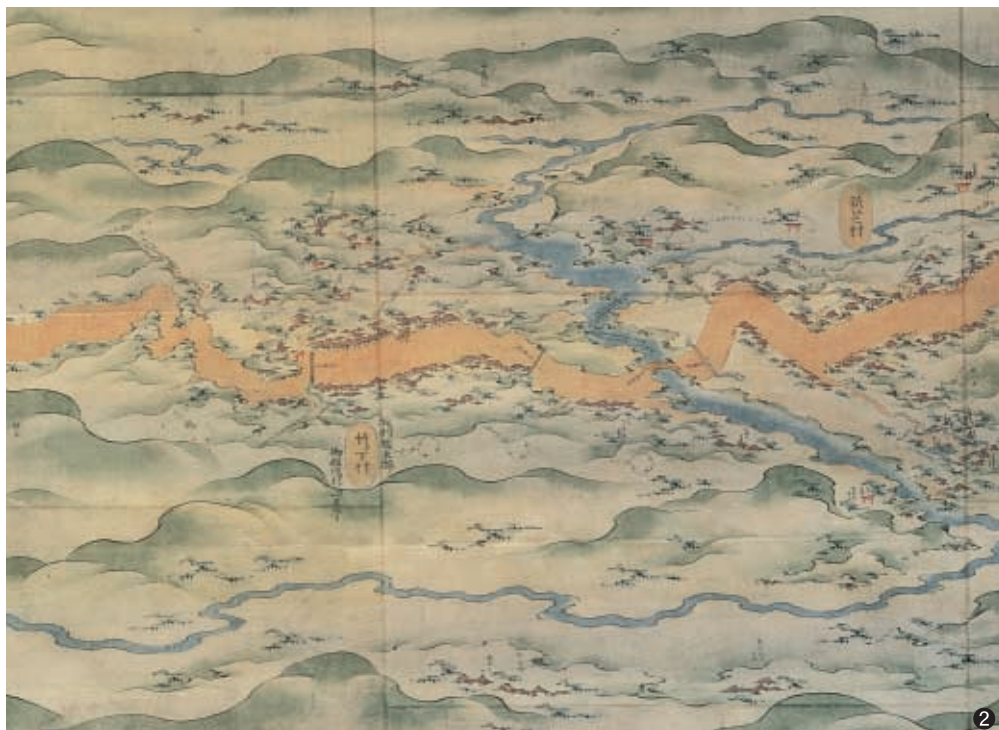
また、駿東赤心隊が結成され、官軍への協力も行われました。



①宝永4年砂降り絵図(御殿場市 滝口文夫氏蔵)

②矢倉沢通り見取絵図(東京国立博物館蔵)

③竹之下村絵図(嶽之下宮蔵)





明治維新で変わる地域社会

明治元年（一八六八）に江戸は東京と改称され、新しい時代の幕が開きました。小山町域の二十五か村は、駿府藩、静岡藩と所屬を代えたあと、明治四年七月の廃藩置県により静岡県となります。

また、戸籍や学制、税制、郵便、徴兵制度など、人々の暮らしに関わる制度も改められていきます。

学制公布により設置された小学校は、現在の菅沼・足柄地区に崇広館、小山地域に成美舎・恵義舎、北郷地区に精義舎、須走地区に開蒙舎が開校されました。当初は校舎が建設できなかったため、寺院の建物などが使用されました。

明治二十二年（一八八九）の町村制施行で小山町域の村々は、六合村（小山・生土・中島・柳島・湯船・藤曲の各村）、菅沼村（御代地菅沼村）、足柄村（竹之下〈所領〉・新柴・桑木の各旧村）、北郷村（大御神・上野・中日向・棚頭・用沢・一色・古沢・下小林・阿多野・吉久保・上古城・下古城・大胡田の各旧村）、須走村（旧須走村）の五か村に統合されました。

東海道本線の開通

明治五年（一八七二）に新橋―横浜間で開業した日本で最初の鉄道は、明治二十二年（一八八九）二月に国府津―静岡間が延長開業、東海道本線が全線開通しました。これにより小山駅が開設されました（現在の駿河小山駅）。

このうち、国府津―沼津間は急勾配の続

町村制により六合村、菅沼村、足柄村、

北郷村、須走村の五か村に統合。

富士紡績の進出により、地域経済は飛躍的に発展する。

く山岳路線であることから、輸送力を確保するため昭和九年（一九三四）に丹那トンネルが開通すると、東海道本線は熱海経由になり、御殿場線と改称されました。

また、御殿場から須走を通り、富士吉田を経て山梨県の大月までを結んでいた馬車鉄道も存在しましたが、営業不振のため昭和三年に廃止されています。

富士紡績の進出

明治中期に綿糸紡績業は発展を続け、国内産業で大きな位置を占めるようになりました。その中核企業として富士紡績が、動力となる水の豊富な菅沼村に進出することになりました。

その背景には、地域の有力者による熱心な誘致活動があり、明治三十一年（一八九八）九月に操業を開始しました。

その後、六合村にも工場が増設され、同地域の人口も急増、小山駅周辺には商店や娯楽施設もつくられていき、金融機関も進出してくるなど、町社会へと姿を変えていきました。

水力発電により電灯が灯る

富士紡績では工場の動力用として電力を増強するため、明治四十年に六合村の小山地区に漆田発電所を建設しました。

この発電所で発電された電力は、周辺地域にも供給され、当初は六合村と菅沼村の家々に電灯が灯りました。その後、大正に入ると北郷、足柄村の農村地帯にも供給されるようになります。

①明治30年ごろの馬車鉄道 ②足柄小学校の開校(明治44年) ③明治40年ごろの富士紡績

明治時代

大正時代

大正時代の幕開けとともに、
六合村と菅沼村が合併して小山町が誕生。
大戦後の好景気と富士紡績の発展で、人口も増えていく。

小山町の誕生

大正という新しい時代の幕開けとともに、大正元年（一九一二年）八月一日に六合村と菅沼村の合併によって小山町は誕生しました。

この町制が施行されるまでは、多くの問題がありました。明治四十年（一九〇七年）に駿東郡長は、日露戦争後の町村財政の窮状を立て直し、協力的な自治体運営を行えるように、町村合併を推進するように指示しています。

これを受けて、六合村と菅沼村は翌年から合併協議を進め、一度は町名を富士町に、小山駅も富士駅と改称することでまとまかけました。しかし、両村内に大きな反対意見があったため、この時には実現しませんでした。その理由は、両村の税制規模と選挙に大きく影響する戸数の違いがあったことからでした。

その後、富士紡績が県知事と交渉を行ったり、両村の財産の引き継ぎ、計画されていた土木工事の推進などが話し合わせ、合併への足掛かりが生まれました。

この合併に際して、県では駿河町という町名を提案しましたが、最終的には小山町の名称で決着しました。また、鉄道省から栃木県に小山町と小山駅があることから、駅名改称の要望があり、小山駅は駿河駅と改称されました。

第一次世界大戦と好景気

大正三年（一九一四年）に第一次世界大戦が勃発すると、日本も大陸へ出兵し、小山町

からも二十一名が応召されました。

大戦は大正七年に終結しますが、日本経済は好景気に包まれ、小山町の財政歳出も大正四年に比べ同十年では三倍増となっています。

これは、富士紡績で第五工場が増設され生産規模が拡大するなど、同社の発展が大きく関係しています。

また、小山町の総戸数も大正三年に比べて十四年では、二千四百八戸から三千二百九十八戸に、人口も一万六千二百五十七人から一万九千五百五人と大きく増加しました。

関東大震災の衝撃とその復興

大正十二年（一九二三）九月一日に相模灘を震源地として発生した関東大震災は、南関東一帯をはじめ小山町域にも大きな被害をもたらしました。

静岡県内では、駿東郡で百九十七人の死者が発生しましたが、そのうち富士紡績工場では百二十三人と最も大きな犠牲者を出しています。小山町の市街地でも、約九割の建物が倒壊、道路や用水路なども寸断されるなど、大きな被害が発生しています。

この被災復興事業のため、県と郡から震災復興資金が交付され、町村債が発行されるなど、多額の財源を投入して復興事業が進められました。

また、富士紡績工場も復旧工事と拡張工事が進められ、大部分が大正十三年七月までに完成しています。

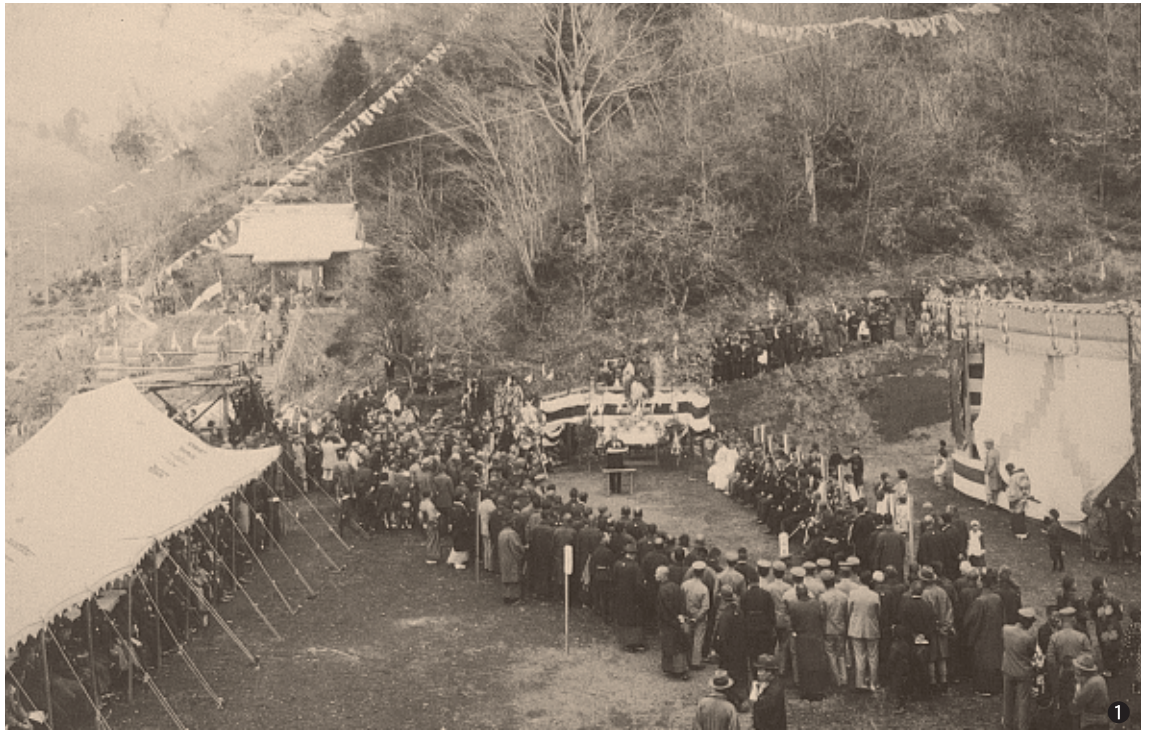
① 関東大震災の被害 ② 大正元年 8 月 1 日小山町制施行記念



1926
▼
1954

昭和元年 (二十九)年

時代を先取りした昭和初期の小山町における行政改革。
昭和恐慌で疲弊した農家も、
新しい方向性で活路を見出す。



昭和初期の行政改革

関東大震災の影響を受けた富士紡績からの大幅な税収減により、小山町の税収も変動し、一般町民からの戸数割課税は、大正十三年には前年の七割増となっていました。

このため、昭和三年（一九二八）から戸数割を廃止して、県税家屋税附加税に変えることが検討されていましたが、当初は内務省や大蔵省の許可を受けられず、昭和五年（一九三〇）から実施されました。

同じ年には、『小山町報』（現在の広報おやまの前身）が創刊され、町政運営や行政の事業、税制の変更などを掲載、町民への行政情報公開の先駆けとなりました。

昭和恐慌による経済の停滞

昭和四年（一九二九）にニューヨークの株式取引所における株の大暴落をきっかけとした世界恐慌は、翌年には日本にも波及し、特に農村地帯は大きな打撃を受けました。

小山町域でも、繭や米の価格が大幅に下がったため、その生産に依存していた農家は減収に苦しみました。そのため、転作や肥料の自給化が進められたほか、大豆の栽培、家畜の飼育、農産加工品の生産などが奨励されるようになりました。

『小山町報』の四十四号でも、特産の大豆を「金時大豆」として栽培を奨めるなど、農家の窮状を救うべく策を掲載しています。

新しい文化の創造

大正期から昭和にかけて、新しい文化も生まれていきました。大正十四年（一九二五）に駿東郡教育会により創刊された『児童文苑』は、子供たちの作品が掲載され、学校で教材にもなりました。また、青年団や富士紡績従業員による文化活動、スポーツ活動なども盛んに行われました。

昭和十年（一九三五）には、保養や観光の拠点となるように金時公園が開設され、近郊からも多くの人々が訪れるようになりました。

忍び寄る戦時の影

昭和六年（一九三一）に勃発した満州事変をきっかけに、同十二年日中戦争に発展、同十六年には太平洋戦争が始まりました。

開戦当初は大きな被害を受けなかった小山町域も終戦近くの昭和二十年（一九四五）七月には、アメリカ軍の艦載機による空襲を受けています。

戦後の復興と民主化の推進

終戦の翌昭和二十一年（一九四六）、政府はGHQの勧告を受け入れた新憲法を制定、民主化への改革が始まりました。同二十二年には、国政・県議会・町議会の選挙が行われ、小山町議会選挙では、投票数が五十パーセントを数えました。

また、農地改革や学校制度の改革、富士紡績の再建が進められたほか、学校施設や住宅の整備も進みます。

① 金時公園の開園

昭和三十年 〜三十九年

新生小山町の誕生

昭和二十八年（一九五三）に町村合併促進法が制定されると、全国各地で市町村の合併が進みます。

静岡県下でも、約二百五十の町村を三年間で八十七町村に統合しようとする計画が立てられ、翌二十九年には御殿場町で北駿地区合併促進研究協議会が開催されました。当初の試案では、小山町と足柄村の二か町村合併案や、北郷村などの三か村合併、御殿場町をはじめとする六か町村合併の三ブロック案も検討されましたが、最終的に小山町は足柄村、北郷村、須走村との一町三か村合併になることが決定しました。

合併は、まず昭和三十年（一九五五）四月一日に足柄村との間で行われ、続いて翌三十一年八月一日に北郷村との合併が行われました。なお、北郷村の古沢地区だけは昭和三十三年に御殿場市に編入されています。

最後の合併は、昭和三十一年九月三十日に行われた須走村との合併で、この日を持って一町三か村が合併した新生小山町が誕生しました。

御殿場線から新宿へ直通運転

町村合併と前後して、昭和三十年十月一日からは小田急電鉄が、松田を経て新宿と御殿場を結ぶようになりました。

これは観光地として脚光を浴びてきた富士山麓へ観光客を送り込むことを目的としたもので、この当時の御殿場線は電化されていなかったため、小田急による準急ディ

足柄村、北郷村、須走村との合併により、
新生小山町が誕生。
合併後のまちづくりは、公共施設の整備から。

1955
▼
1964

合併後の新しいまちづくり

新たな合併によって誕生した小山町は、町域も広がるとともに、町の基盤づくりも進められます。

学校施設の整備は、優先課題のひとつとして進められ、昭和三十六年度には小山中学校・須走中学校の増築工事が行われました。

また、福祉関連事業として各地域で町営住宅の建設が進められたほか、昭和三十一年には生土保育所を開設、同三十四年には母子保健センター、三十五年には足柄幼稚園、三十七年に北郷幼稚園、三十八年に菅沼幼稚園の開設が続きます。

このほか、各地域で有線放送電話の整備が進められたり、県道上野・大御神線や小山・山中湖線の開通に伴う道路網の整備も進みます。また、昭和三十九年には、「交通安全都市」を宣言。これは車社会の進展に伴って交通事故増加が予想されることから、安全なまちづくりに向けての取り組みを進めることにしたものです。

観光客誘致と地域の観光振興を図るため、昭和三十八年には小山町観光協会が設立されています。

- ①東京オリンピック聖火リレー（小山隊） ②小山中央道開通式 ③須走村立小中学校



2



3



1

昭和四十年 （四十九年）

1965 ▶ 1974

御殿場線の電化と東名高速道路の開通で、
交通機関が飛躍的に発展。
金太郎伝説に結ばれ、岡山県勝央町と姉妹都市を締結

進展する広域行政

隣接する行政区域で効率よく事業を進めていくため、各地で広域行政による共同事業が行われていますが、小山町でも御殿場市との間で共同事業を進めることになりました。

まず、昭和四十一年（一九六六）には、御殿場市・小山町厚生施設組合が設立され、斎場やごみ焼却施設を共同で運営することになりました。翌四十二年には、救急自動車業務を開始。四十三年には、新しいごみ処理工場の稼働が始まっています。

なお、厚生施設組合の名称は、現在では広域行政組合に改称されています。

御殿場線電化と東名高速道路開通

国鉄御殿場線の電化を求める運動は、昭和二十四年の御殿場線電化期成同盟の結成以来続けられてきましたが、昭和四十年十二月に待望の電化工事起工式が行われました。

電車運転は、昭和四十三年（一九六八）四月二十七日から国府津～御殿場間で開始され、同年七月一日には沼津までの全線運転となりました。この電化開業により、明治二十二年から運転されていた蒸気機関車は姿を消し、運行時間は大幅に短縮されました。東京駅まで直通する急行「こてんぼ号」の運転も開始され、駿河小山～東京間は一時間四十分から五十分で結ばれるようになりました。また、電化開業に合わせて老朽

化が著しかった駿河小山駅も町の玄関口にふさわしいものにするため、駅舎の建て替えと駅前広場の整備が行われています。

小田急電鉄も電化とともに新宿から特急ロマンスカー「あさぎり」の運転を開始。現在は、JR東海との共同運行により、新宿～沼津間で運転されています。

日本の長距離高速自動車道路としては最初のものとなった東名高速道路は、昭和四十四年（一九六九）に開通。インターチェンジは御殿場市内に設けられましたが、小山町と首都圏各地との所要時間は大幅に短縮され、産業振興や観光面での利便性も向上しました。

公共施設の充実と町章・町旗の制定

昭和四十五年（一九七〇）には、小山町のシンボルとして町章と町旗が制定されました。考案者は用沢地区の山崎先一さんで、小山町のイニシャル「O」を基本に、富士・箱根・丹沢の連峰に囲まれたオアシスを表現し、町民の団結・希望・勇気を表しています。

公共施設の整備も進められ、昭和四十三年の町立体育館の開設に続き、四十五年には中央公民館と町民総合グラウンド、町民プールが、四十七年には農業研修センターが開設されています。

また、昭和四十八年十一月二十四日には金太郎伝説が取り持つ縁で、岡山県勝央町との間で姉妹都市の締結が行われています（勝央町の紹介は三千七ページにあります）

① 富士スピードウェイ開場 ② ロマンスカー「あさぎり」 ③ 47.7 豪雨の猛威 ④ 駿河小山駅の駅舎・広場が一新 ⑤ 東名高速道路の下谷地先工事



昭和五十年 ～六十四年

富士小山工業団地が完成
町制七十周年を記念して、
町の花・木・鳥、町民憲章を制定

1975
▼
1989

都市機能の充実をめざして

昭和五十一年（一九七〇）には、小山町の都市計画区域が策定されました。この都市計画は、市街化区域、市街化調整区域、用途地域が定められ、将来に向けて都市機能の充実を図るとともに、自然環境に配慮した調和のとれたまちづくりを進めるために策定されたものです。

町民のための福祉、保健関連の施設整備も進められます。昭和五十三年（一九七八）には、保健活動の中心施設となる町民健康センターが開設されました。

昭和五十七年（一九八二）には、婦人の園インマヌエルが大御神地区に、特別養護老人ホーム岳東雨山荘が上野地区に開設されています。また、福祉事業のの中心として活動している小山町社会福祉協議会が、昭和五十八年に福祉法人となりました。

緑豊かな台地を求めて

小山町は京浜経済圏に隣接し、富士山を背景とした景観の美しさや用水にも恵まれていることなどから、昭和五十年代には多くの企業・工場が進出しました。

昭和六十二年十一月には、富士小山工業団地の造成工事が完了しました。

また、高度経済成長が終わり、五十年代も半ばを過ぎる頃になると、各企業の研修施設などが相次いで建設されるようになりました。中でも経団連ゲストハウスは、財界企業人の研修や海外要人を招いての国際会議の舞台となっています。

町の花・木・鳥と町民憲章を制定

昭和五十七年（一九八二）には、大正元年（一九一二）の町制施行から七十周年を迎えたことを記念した行事が行われています。

八月一日に小山町のシンボルとして、町の花・木・鳥が制定されました。

町の花として選ばれたのは、町内の多くの地域で見られ、春先に黄色のかわいい花を咲かせる「菜の花」。町の木は、富士山麓に自生し淡紅色の花を咲かせる「ふじ桜」。町の鳥には、春を告げる鳥として知られる「うぐいす」に決まりました。

十二月五日には小山町民憲章も制定されました。この憲章も町制施行七十周年に合わせて町民から公募を行ったもので、小山町に暮らす私たちの精神的なシンボルとまちづくりの指針として掲げられました。

町民サービスの向上のために

昭和五十年代の後半からは、町民サービスの向上を図るために、公共施設の整備が進められます。

昭和五十七年には、小山町役場庁舎の新築工事が完成。同五十八年には、須走支所を併設したコミュニティセンター、五十九年には足柄支所を併設したコミュニティセンターも開設されています。

昭和六十三年には、浩宮殿下（現皇太子殿下）が須走口から富士登山に向かわれるという出来事もありました。

① 経団連ゲストハウス ② 大量の土砂が流れ込んだ駅前通り ③ 役場新庁舎完成





文化・スポーツ施設が次々に完成

時代が平成に変わった最初の年、東富士五湖道路が全線開通しました。この道路は、富士五湖とその周辺を結ぶもので、観光誘致や産業振興のために早期開通が望まれていたもので、完成後は広域周遊観光の利便性も大きく向上しました。

小山町総合文化会館は、平成四年（一九九二）に完成、中広い用途に活用できるステージなどを設け、町民の文化・芸術活動の拠点として利用されています。

小山球場と多目的広場は、平成六年にオープン、総合体育館は平成八年に完成し、スポーツ大会やイベント、レクリエーションなどの会場となるほか、市民が気軽にスポーツを楽しむ機会が広がりました。

このほかの話題では、お年寄りの生きがい事業や世代交流を目的としたシルバー人材センターを平成三年に開設、平成五年には観光案内所、平成七年には公設民営の医院もオープンしています。

平成十年三月には、足柄駅前の土地地区画整理事業が完成。六月には、竹之下地区で温泉の掘削に成功するという話題もありました。また、平成十一年四月には下水道供用が開始され、平成十二年には健康福祉会館「ふじみセンター」がオープン、翌十三年三月からは、センター内の「ゆつたり湯」が温泉として生まれ変わりました。

大きく進展する国際交流

交流活動を通して友好を深めたり、相互

文化・スポーツ活動の拠点となる、

総合文化会館や体育館が完成。

カナダのミッシオン市との間で、姉妹都市を締結

理解を進めることを目的とした国際交流は年を追うごとに盛んになっています。そのため、こうした活動を広め、多くの人に理解してもらえるように、国際友好協会が平成二年に設立されました。

平成八年（一九九六）十月七日には、カナダのブリティッシュ・コロンビア州ミッシオン市との間で姉妹都市の提携が結ばれました。

ミッシオン市はフレイザー川を中心に森や湖に囲まれた美しいまちで、林業や畜産業、観光などが盛んです。また、ステンドグラスで有名なウエストミンスター寺院があるまちとしても知られています。

小山町との間では、中学生・高校生を主体とした教育交流からスタートしましたが、現在では相互訪問など、多彩な交流活動が展開されています。

また、平成九年には小山町日中友好協会が設立されるなど、国際交流の舞台は広がりを見せています。

富士山憲章の制定

地球規模での環境保全が求められている中、平成十年（一九九八）に静岡県と山梨県は、富士山憲章を制定。この憲章は、富士の裾野に位置する都市だけではなく、日本全国に向け富士山を守る決意を発信するとともに、自然保護活動に寄与することをめざしたものです。

平成九年には、南足柄市との間で金太郎防災友好都市協定が、山北市との間で災害時相互援助協定が締結され、災害時における体制づくりも進められています。

平成元年

十四年

1989 ▶ 2002

①カナダ・ミッシオン市と国際姉妹都市提携 ②ふじみセンター



金時神社

足柄山で生まれた金太郎は、いつも大きなま
さがりをかついで金時山や足柄山の広い野山を
駆けめぐる、人一倍元気な子どもでした。力が
めつぼう強く、山一番の力持ちの熊と相撲をと
って投げ飛ばしてしまうほど。しかも、強いだ
けではなく、心優しい金太郎は、谷を渡ること
ができずに困っていた動物をたすけるために、
木を倒して橋をかけてあげたり、お弁当をみん
なに分けてあげたりしていました。気が優しく
力持ちで、知恵と勇気を持ち合わせた少年だっ
たのです。

成長した金太郎が源頼光に見いだされたと伝わ
る場所が、竹之下にある「頼光対面の滝」です。
足柄峠で赤い雲のたなびく峰を見た頼光が「あの
雲の下には偉人があるにちがいない」といつて出
会ったのが金太郎だったのです。このときから金
太郎は坂田金時と名を改め、都で鬼や盗賊を退治
して、一躍有名な武将となりました。

坂田金時は平安時代中期に実在した人物です。
当時は藤原道長を頂点とする藤原氏の全盛期で、
藤原摂関家に臣事して勢力を伸ばしていた源頼光
の、四天王の一人として知られています。

According to ancient legend, Kintaro was born in Oyama Town. Kintaro is the childhood name of Sakata Kintoki who was active during the mid-Heian period while the Fujiwara house was at the pinnacle of its power. Sakata is known as one of the four strongest retainers of Minamoto Yorimitsu, a military commander who gradually expanded his powers while serving the branch of the Fujiwara house that held regency offices.





ちょろり七滝▶

金太郎の産湯に使われたといわれる滝。後に、世に知られる立派な武将となった金太郎にあやかろうと、付近の村人たちもこの滝の水を産湯として使ったと伝えられています。



爪切地藏▶

箱根の湯で目の病を癒した母・八重桐とともに帰途に着いた金太郎が、足柄峠のお地藏さまを思い出して石の面を爪で彫ったといわれています。

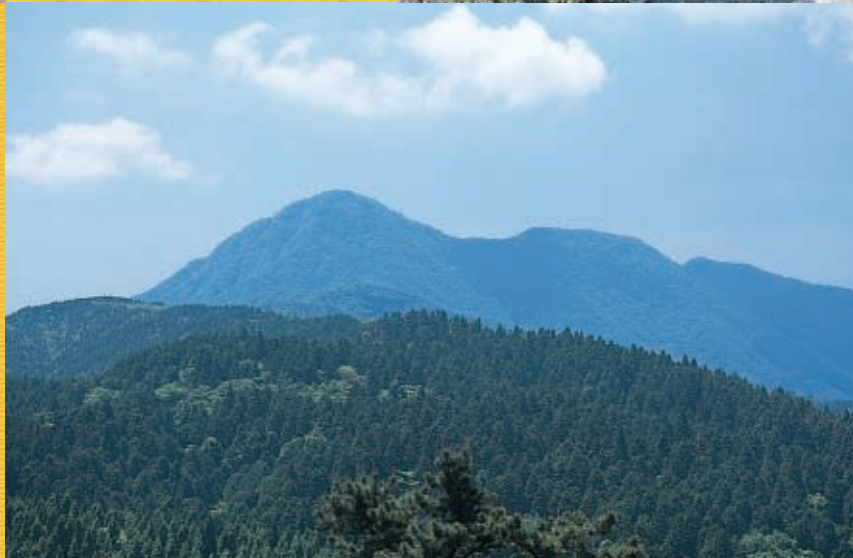


金時屋敷▲

坂田金時の子孫の家があったところで、金太郎が育った屋敷跡とされ、現在金時神社拝殿が建てられています。(金時公園内)

金時山▶

その昔、猪鼻山と呼ばれていた金時山は箱根外輪山の最高峰で、富士箱根伊豆国立公園の特別保護地区に指定されています。金太郎が動物たちと遊んだ山で、相撲の稽古で熊を投げ飛ばした話が童謡にも歌われています。海拔1213m。



沼子の池▲

この池に水浴びに来ていた金太郎が大きな緋鯉を見つけ、池に飛び込んで鯉に抱きついたところ、驚いた鯉は空高く跳ね上がったといわれています。5月の鯉のぼりに金太郎が描かれるゆえんとなった話と伝えられています。



金太郎の ふるさとを訪ねて

こんなにあるぞ！ 最強の 金太郎グッズ



その他の特産品は、
P44を見てね！

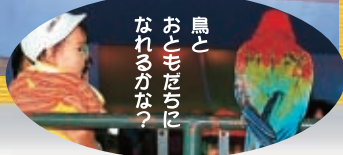


金太郎ワイン、金太郎ざぶとん、
金太郎飴…金太郎の
名に恥じない数々の
グッズがお目見え
しています。



おやまっ子の祭典です！

金太郎の名を冠した、金太郎
夏まつりと金太郎春まつり



その名も 「金太郎郵便局」 オープン！



誕生の地と 終焉の地。 金太郎つながりで 姉妹都市になりました。



岡山県勝田郡勝央町は、岡山県東北部に位置し、中国山脈の主峰那岐山の南にあります。源頼光の四天王となった坂田金時（金太郎）が九州征伐の途上熱病で倒れ、ここ勝央町で亡くなったといわれています。

誕生の地・小山町と終焉の地・勝央町。金太郎がとりもつ縁で、昭和48年11月24日に姉妹都市締結しました。

おかやまファーマーズ・マーケット
ノース ヴィレッジ



Shoo Town of Katsuta County is located in the northeast of Okayama Prefecture. The town is south of Mt. Nagi, which is the main peak of the Chugoku Mountains. While traveling to Kyushu to quell a rebellion, Sakata Kintoki (Kintaro) is said to have caught a fever on the way and died in Shoo Town. Kintaro was thus born in Oyama Town and died in Shoo Town. Due to this shared connection with Kintaro, Oyama and Shoo officially became sister towns on November 24, 1973.

岡山県勝央町

イベント



富士山と金太郎、
そして清流のまちならではの
楽しい行事が目白押し！

カレンダー

- ①金太郎夏まつり
- ②足柄竹之下宿場まつり・時代衣装パレード
- ③ふれあい広場



冬

成人式
道祖神まつり
どんど焼き
消防出初式
金時DE初日の出
富士小山マラソン大会
地域防災訓練
ふれあい広場
地区文化祭
町民文化祭
老人クラブ連合会スポーツ大会
秋祭り
敬老会
足柄峠笛まつり

秋

敬老会
地区体育大会
富士山閉山式
地区盆踊り
町民スポーツ祭
金太郎夏まつり
自衛隊富士学校開校記念日

夏

お盆
町制記念日
富士山山開き
沼子弁財天菖蒲まつり
418のつどい
金太郎春祭り
聖天堂大祭
鮎沢川釣り大会

春





④桜 100 選に選ばれた富士霊園の桜 ⑤富士小山マラソン大会 ⑥自衛隊富士学校開校記念日
⑦おやま DE どんぶらこ(金太郎夏まつり) ⑧足柄峠笛まつり ⑨富士山山開き ⑩富士山砂走り
⑪竹之下太鼓(足柄竹之下宿場まつり) ⑫沼子池の花菖蒲 ⑬金太郎春祭り ⑭金太郎誕生伝説街道まつり





大洞山(角取山)
1383m

三国山
1323m

湯船山
1041m

不老山
928m



子産田之地



至・東京
至・国府津

至・大井
松田・C

東名高速道路
東名高速道路



誓いの丘

- ★のマーク
金太郎コース
- のマーク
足柄路コース
- のマーク
田園コース
- のマーク
宿場コース



足柄の関所跡



銚子ヶ淵

金時山
1213m



▲小富士
1979m

▲立山
1330m

▲富士山
3776m



須走口登山道

須走口下山道(砂走り)

須走口五台目

ふじあざみライン

東富士五湖道路

藤原光親卿の墓

夕日公園

駒止の松

1 富士浅間神社

大柳の芭蕉句碑

陸上自衛隊
富士学校

2 スタール博士
の碑

東富士
リサーチパーク

138

おやまイラストマップ

散策コース
つき!





銘菓の数々



蜂蜜



左から ニジマスの甘露煮、水菜・わさび漬け



生わさびとなめこ

Specialty Products of OYAMA

おやまの特産品

富士山や丹沢山系の豊かな水源に恵まれた小山町では水掛菜やわさびなど、地の利を活かした栽培が盛んです。

また、町おこしの一環として金太郎生誕の地・おやまをアピールするユニークな物産も数多く生産されています。

➡ 金太郎グッズは P37 を見てね！



和風と竹細工



ビールと地酒

町民憲章

わたくしたちは、富士のもと水と緑にめぐまれていることに誇りをもち、金太郎のように、健康で、明るい、ゆたかな町づくりをすすめます。

1. めぐまれた自然を愛し、美しいまちをつくります。
1. きまりを守り、安全で、住みよいまちをつくります。
1. のびゆく力を育て、文化の薫り高いまちをつくります。
1. 働くことによるこびをもち、健康なまちをつくります。
1. たがいに助け合い、親切で、あたたかいまちをつくります。

町制施行 70 周年記念にあわせて、町民から公募し、昭和 57 年 12 月 5 日制定しました。

Oyama Civic Charter

We take pride in being blessed with water and greenery at the foot of Mt. Fuji and will promote the development of a town that, like Kintaro, is healthy, cheerful, and prosperous.

1. We will appreciate our natural blessings and create a beautiful town.
2. We will obey the rules and create a safe and comfortable town.
3. We will nurture budding talents and create a highly cultivated town.
4. We will find joy in working and create a healthy town.
5. We will help each other and create a warm, caring town.

In commemoration of the 70th anniversary of Oyama's incorporation as a town, this charter was established on December 5, 1982, on the basis of ideas openly recruited from the public.

町 章

町の木／ふじ桜

町の鳥／うぐいす

町の花／菜の花



小山町町勢要覧

発 行 ● 静岡県小山町

編 集 ● 企画調整課

発行日 ● 平成14年8月

印 刷 ● (株)ぎょうせい

Data Box

小山町町勢要覧 2002 資料編

地勢と人口

● 町の位置・面積（4月1日現在）

町の位置 広ぼう
東経 138° 59' 東西 26.04km
北緯 35° 21' 南北 13.33km

	面積（平方km）	海拔（m）
全 体	136.13	
小山地区	28.05	266
足柄地区	20.17	331
北郷地区	45.37	442
須走地区	42.54	786

P1 地勢と人口

町の位置・面積、人口・世帯数の推移、年齢別人口

P2 健康・福祉

平成12年度介護保険認定状況、小山町立保育園園児数集計表、
平成12年度介護保険在宅サービス利用状況、老人医療費の推移 ほか

P3 教育・文化

学校区別児童生徒数及び教職員数、総合文化会館利用状況の推移、
主な社会教育施設利用状況の推移、指定文化財一覧

P4 産業

工業の推移（事業所数・従業者数・製造品出荷額）、
商業の推移（商店数・従業者数・販売額）、農業の推移（農家数・経営耕地面積）

P5 生活環境

火災発生件数の推移、交通事故発生件数の推移、ごみ処理状況の推移、町内の道路延長

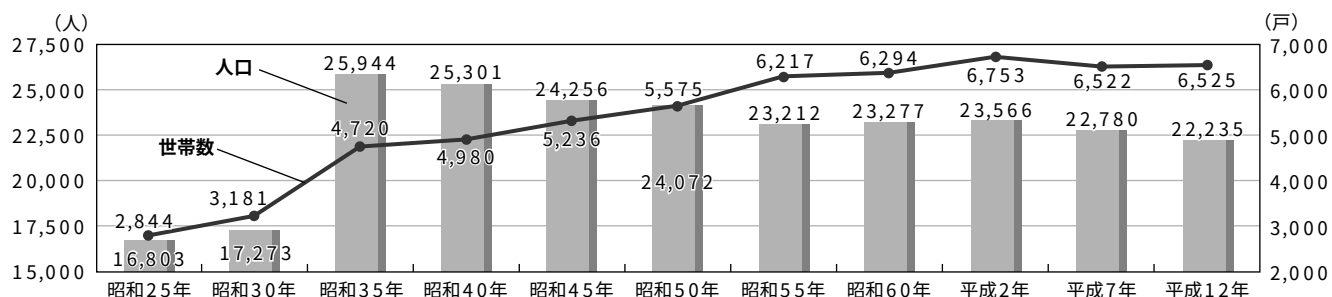
P6 財政

一般会計決算額の推移、町民1人あたりの歳出額の推移、一般会計当初予算

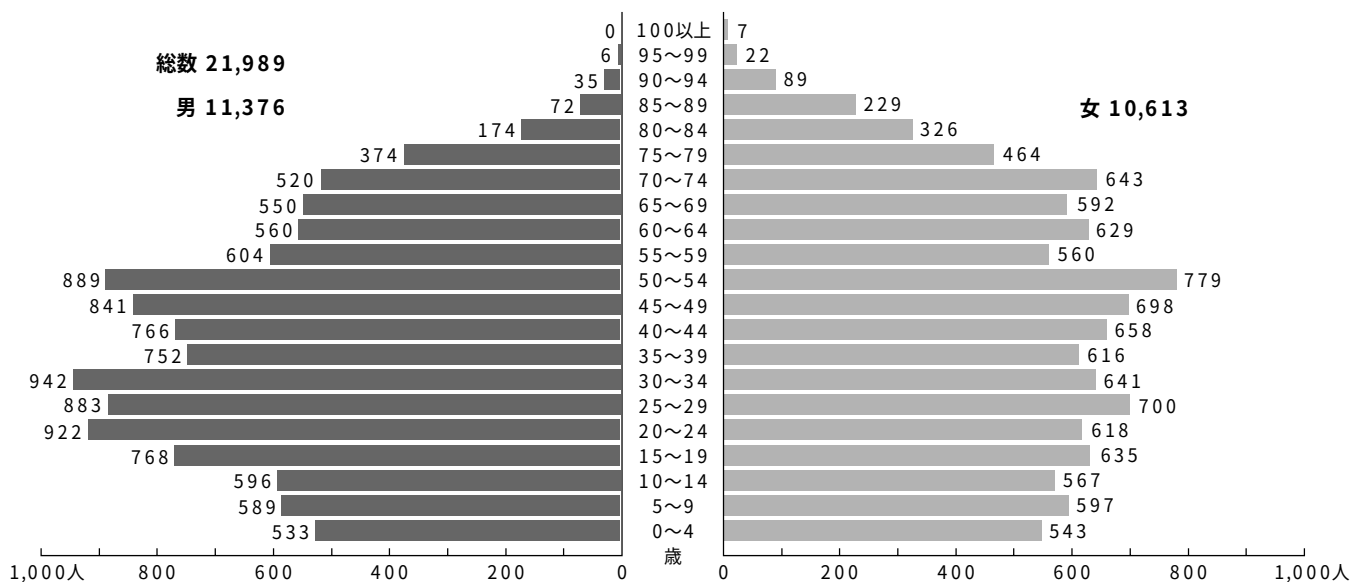
P7 歴代4役、議会議長・副議長

P8 主な施設一覧

● 人口・世帯数の推移（10月1日現在）



● 年齢別人口（平成13年10月1日現在）



健康・福祉

● 平成12年度介護保険認定状況

	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
第1号被保険者	27	71	74	77	64	60
内訳						
65歳以上	5	19	22	8	10	9
75歳未満						
75歳以上	22	52	52	69	54	51
第2号被保険者	0	2	3	4	4	1
総 数	27	73	77	81	68	61

資料：健康福祉課

● 平成12年度介護保険在宅サービス利用状況

	実 績 (計画に対する達成率)	利用人員 (人)
訪問介護(回/年)	14,990 (105.2%)	102
訪問入浴介護(回/年)	942 (222.7%)	39
訪問看護(回/年)	792 (29.9%)	29
訪問リハビリテーション(回/年)	247 (191.5%)	8
通所サービス合計(回/年)	9,026 (69.3%)	141
通所介護(回/年)	6,723 (99.3%)	102
通所リハビリテーション(回/年)	2,303 (36.8%)	43
短期入所合計(週/年)	148 (31.2%)	80
短期入所生活介護(週/年)	115 (45.8%)	60
短期入所療養介護(週/年)	33 (14.8%)	26
福祉用具貸与・購入(件/H13/3月)	52 (92.9%)	89
居宅療養管理指導(人/H13/3月)	15 (10.3%)	30
居宅介護住宅改修(人/年)	21 (23.3%)	21
痴呆対応型共同生活介護(人/月)	0 (0.0%)	0
特定施設入所者生活介護(人/月)	0 (0.0%)	0
居宅介護支援(人/H13/3月)	171 (44.9%)	250

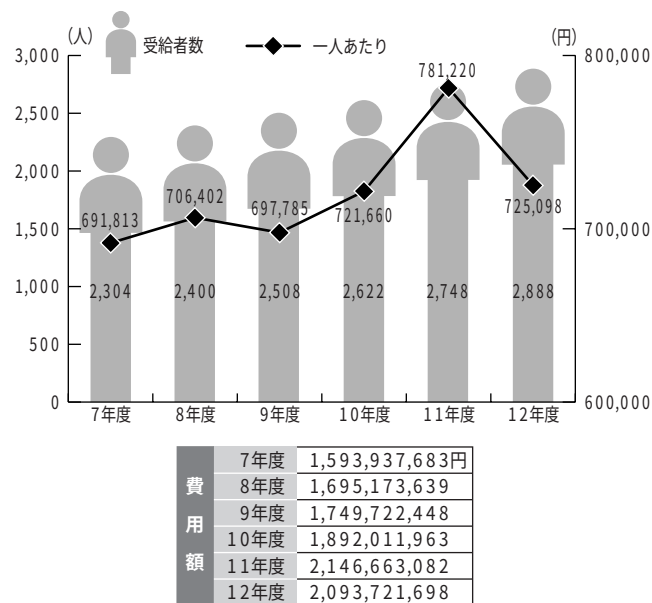
資料：健康福祉課

● 小山町立保育園園児数集計表 (各年4月1日現在)

	いきど 保育園	すがぬま 保育園	きたごう 保育園	すばしり 保育園	合計
平成 9年度	57	75	78	79	289人
平成10年度	55	67	83	80	285
平成11年度	69	60	76	81	286
平成12年度	71	65	81	73	290
平成13年度	75	71	86	70	302

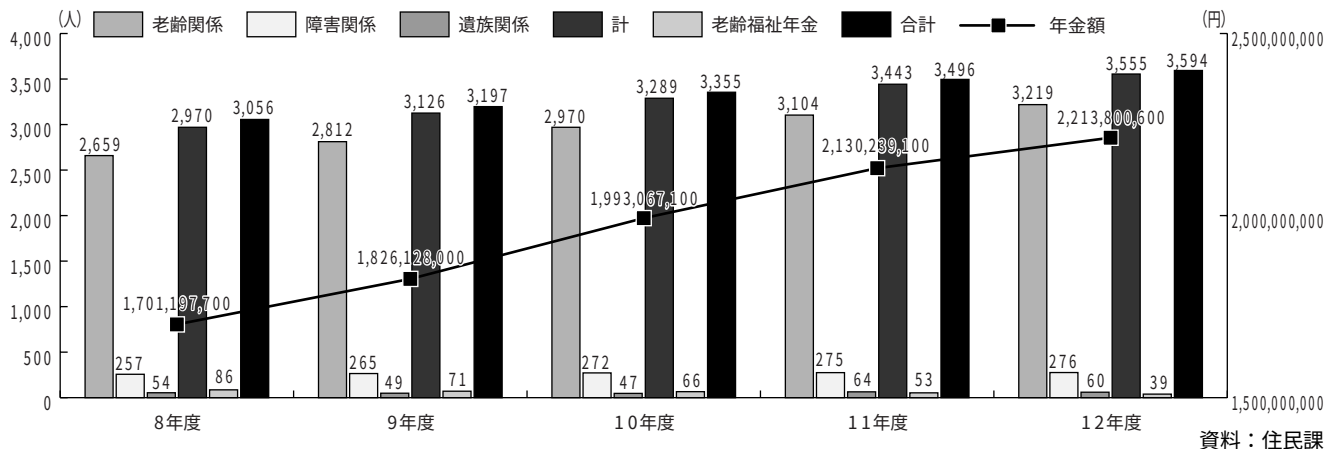
資料：健康福祉課

● 老人医療費の推移



資料：住民課

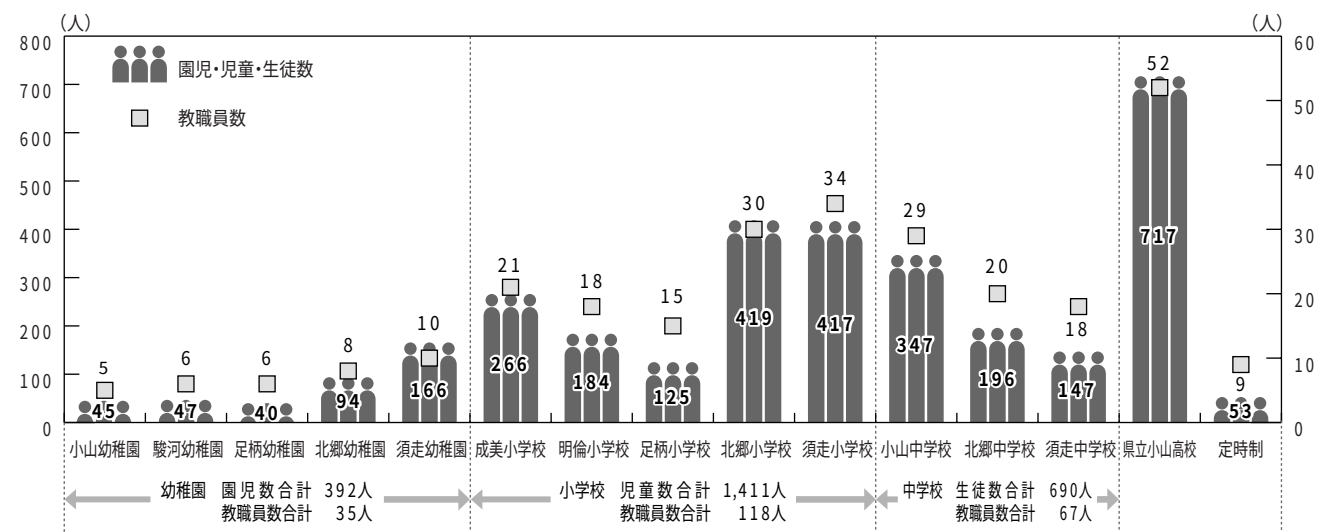
● 拠出年金受給者数の推移



資料：住民課

教育・文化

● 学校区別児童生徒数及び教職員数（5月1日現在）



資料：学校管理課、小山高校

● 総合文化会館利用状況の推移（各年3月31日現在）

年 度	ホール棟		研修棟	
	利用者数	使用回数	利用者数	使用回数
8年	39,127人	704回	37,264人	1,361回
9年	42,307	766	41,268	1,450
10年	44,945	696	36,081	1,441
11年	66,921	872	60,142	1,715
12年	56,023	781	49,615	1,689

資料：生涯学習課

● 主な社会教育施設利用状況の推移（各年3月31日現在）

年 度	中央公民館		町立図書館		総合体育館	
	利用者数	使用回数	利用者数	使用回数	利用者数	使用回数
8年	8,985人	480回	28,224人	—	28,993人	290回
9年	6,959	429	28,823	—	29,504	987
10年	6,002	354	25,007	—	26,695	1,048
11年	4,954	311	21,090	—	36,470	1,107
12年	3,616	253	22,874	—	36,525	1,039

資料：生涯学習課

● 指定文化財一覧

県 指 定

件 名	指定年月日	場 所	件 名	指定年月日	場 所
富士浅間神社のハルニレ	S38. 2.19	富士浅間神社境内	柳島八幡神社の二本スギ	S42.10.11	柳島八幡神社境内
上野のトチノキ	S41. 3.22	上野奥の沢	宝鏡寺の木造地藏菩薩坐像	S60. 3.14	小山町竹之下1462 宗教法人宝鏡寺
大胡田天神社のイチヨウ	S41. 3.22	大胡田天神社境内			

町 指 定

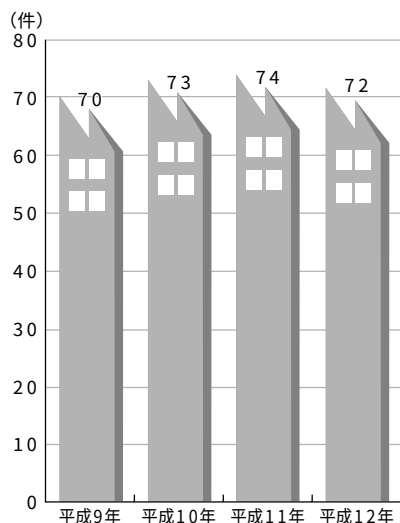
件 名	指定年月日	場 所	件 名	指定年月日	場 所
乗光寺大森六代之墓	S48.10.25	生土乗光寺	棚頭産神社のスギ	S63. 12.16	棚頭産神社境内
甘露寺の宝篋印塔	S48.10.25	菅沼甘露寺	用沢八幡宮の三本スギ	S63. 12.16	用沢八幡宮境内
湯船八幡神社の夫婦スギ	S58. 5. 1	湯船八幡神社境内	嘉慶銘宝篋印塔	S63. 12.16	菅沼字塔の元
上野神明社のツクバネカシ	S58. 5. 1	上野神明社境内	栗の木沢の唯念名号碑	H 3. 5. 1	竹之下梨の木尾
富士浅間神社のエゾヤマザクラ	S58. 5. 1	富士浅間神社境内	富士浅間神社の根上りモミ	H 3. 5. 1	富士浅間神社境内
竹之下太鼓	S59.12.21	小山町竹之下区	栗の木沢題目碑	H 4. 6. 1	竹之下沢ハミ

資料：生涯学習課

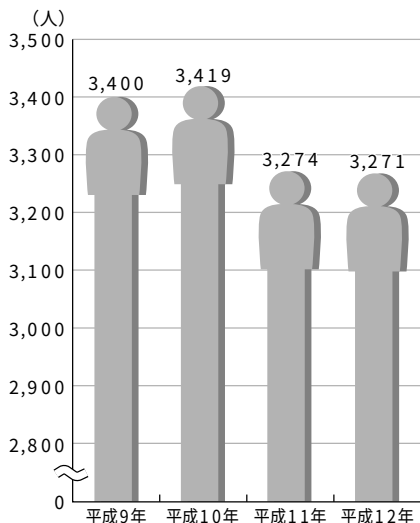
産業

● 工業の推移（各年12月31日現在）

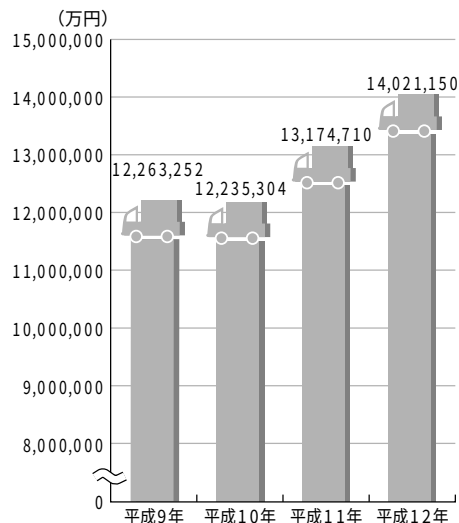
<事業所数>



<従業者数>



<製造品出荷額>

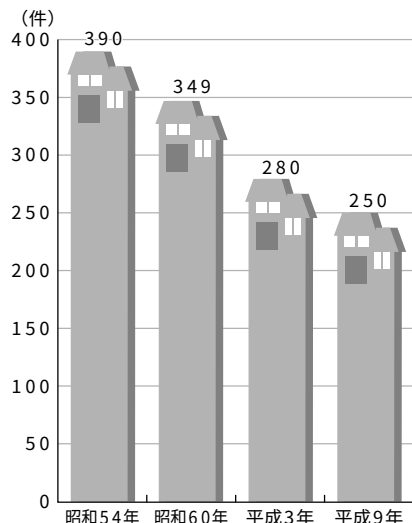


資料：工業統計調査

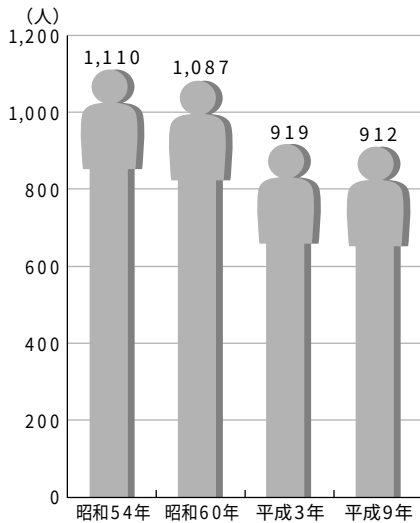
注）従業者3人以下の事業所を除く

● 商業の推移（各年6月1日現在）

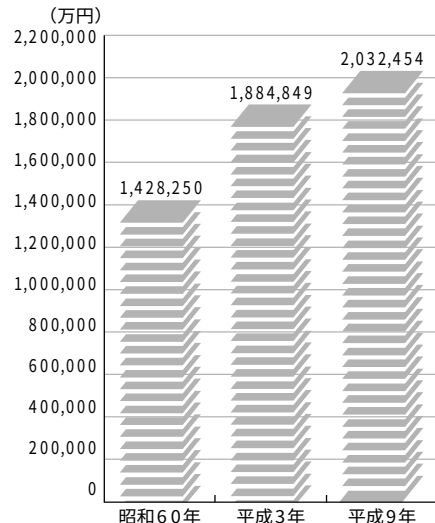
<商店数>



<従業者数>



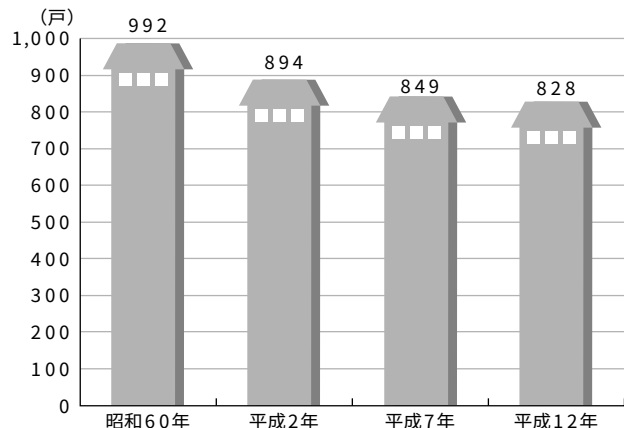
<販売額>



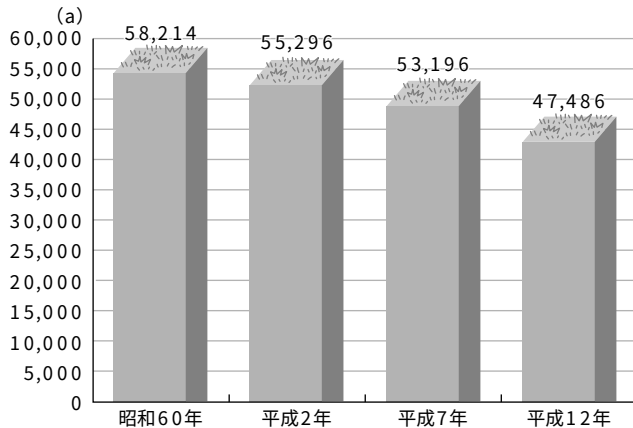
資料：商業統計調査

● 農業の推移（各年2月1日現在）

<農家数>



<経営耕地面積>

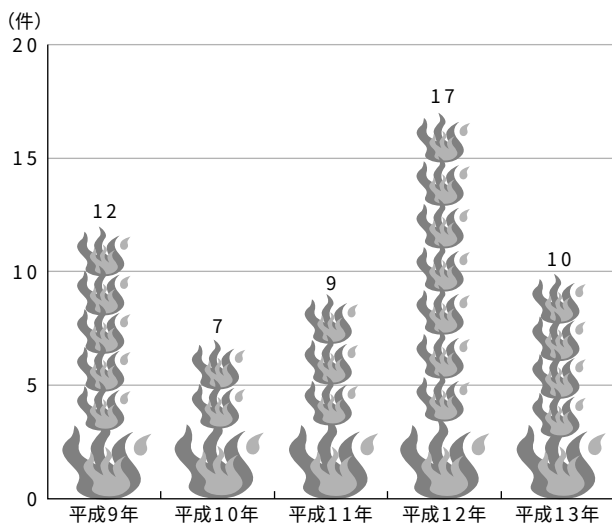


資料：農業センサス

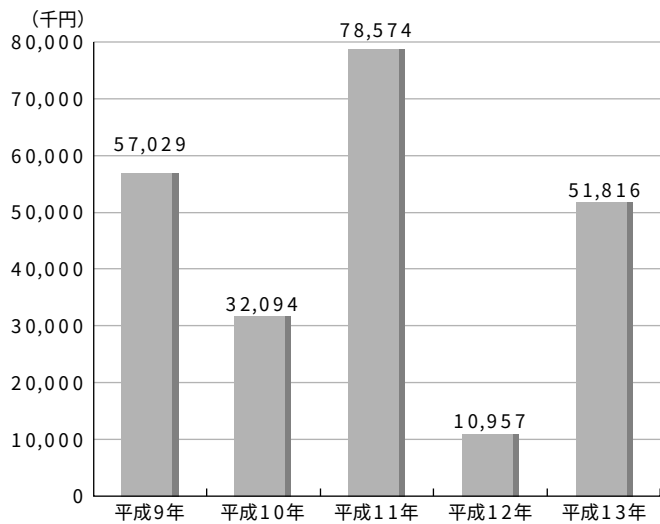
生活環境

● 火災発生件数の推移

<火災件数>

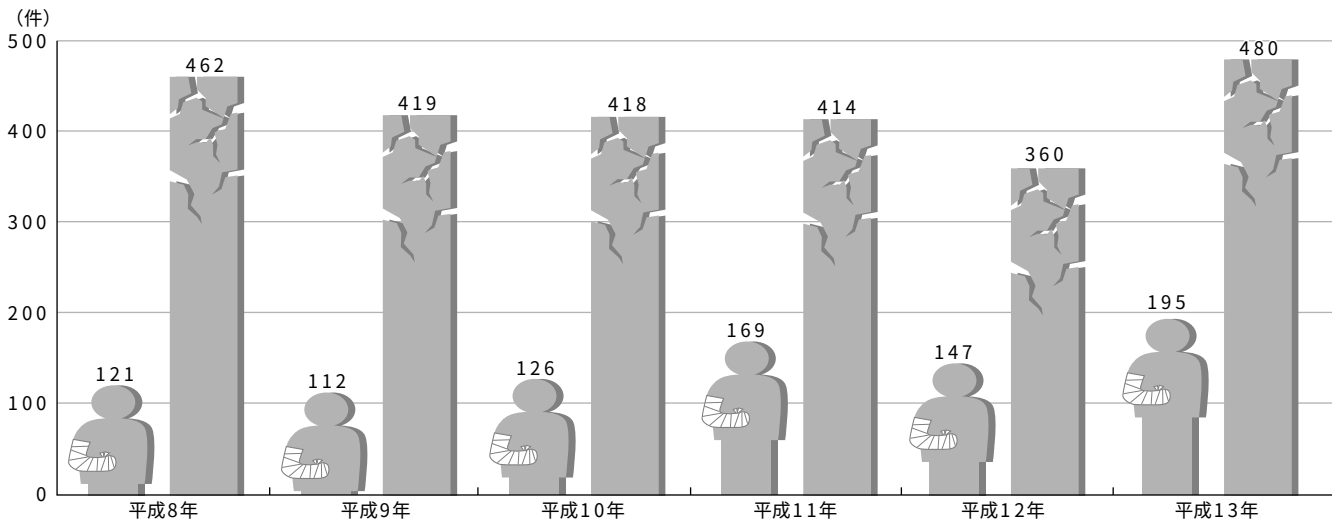


<損害額>



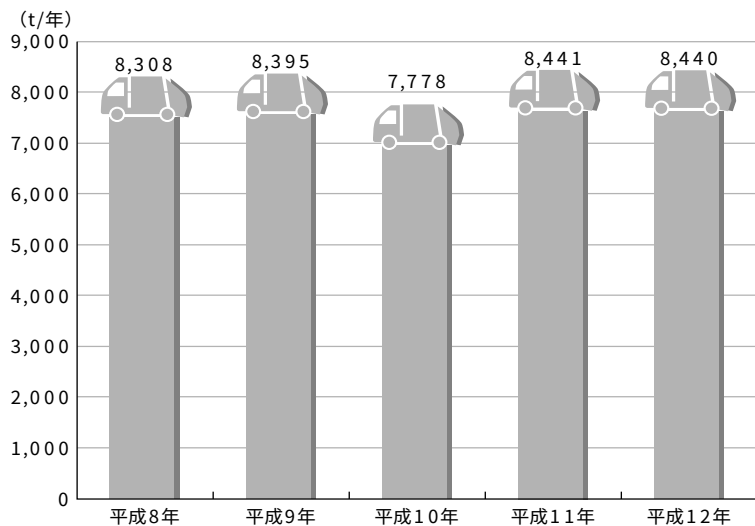
資料：消防年報

● 交通事故発生件数の推移



資料：生活環境課

● ごみ処理状況の推移



資料：生活環境課

● 町内の道路延長 (各年4月1日現在)

実延長 (m)	
平成 4年	429,188.5
平成 9年	436,964.1
平成14年	438,078.0

資料：建設課

財 政

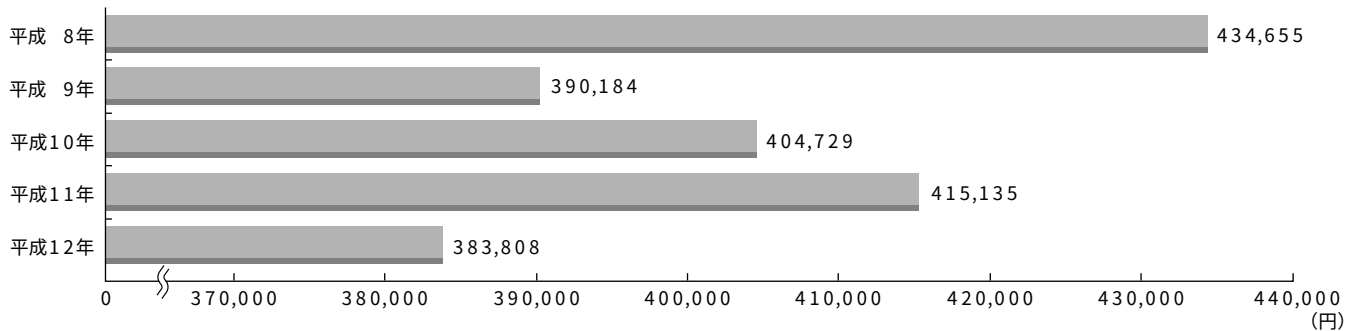
● 一般会計決算額の推移

単位：円

	平成 8 年	平成 9 年	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年
歳 入	9,973,150,941	9,035,944,388	9,342,822,929	9,397,711,300	8,661,890,737
歳 出	9,602,821,998	8,558,685,177	8,872,460,305	9,055,746,118	8,407,304,519

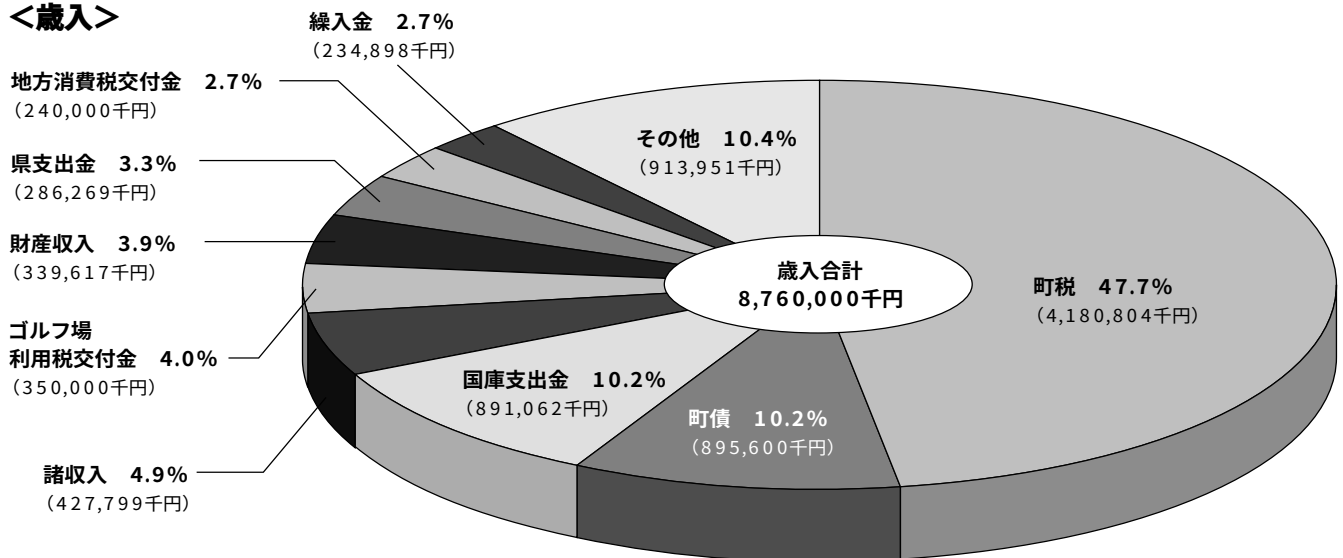
● 町民1人あたりの歳出額の推移（4月1日現在）

例：12年度決算額は平成13年4月1日現在の人口で割ったものです

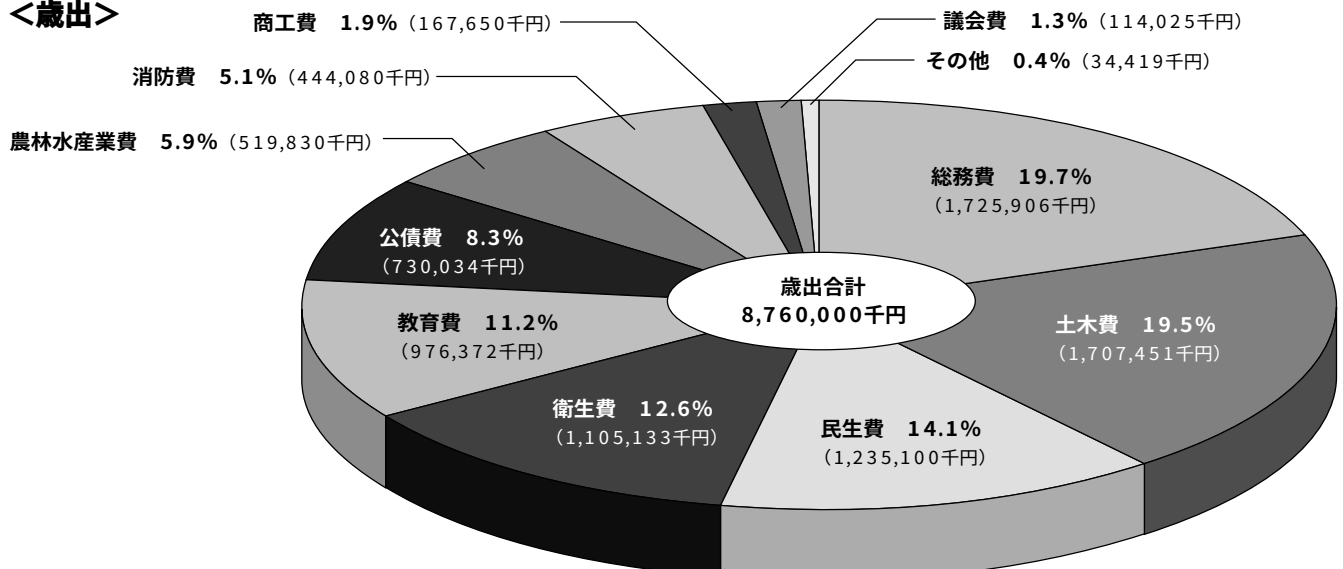


● 平成14年度一般会計当初予算

<歳入>



<歳出>



歴代4役、議会議員・副議長

● 歴代町長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	湯山 寿介	大正 元年 10月 16日	大正 5年 10月 15日
2代	湯山 剛平	大正 5年 10月 16日	大正 9年 10月 15日
3代	室伏 完	大正 9年 10月 18日	大正 13年 10月 17日
4代	室伏 完	大正 13年 10月 18日	大正 14年 3月 17日
5代	湯山 剛平	大正 14年 10月 12日	昭和 4年 10月 11日
6代	湯山 正平	昭和 4年 11月 8日	昭和 8年 11月 7日
7代	高橋文治郎	昭和 8年 11月 8日	昭和 12年 11月 7日
8代	岩田 幸恵	昭和 12年 11月 8日	昭和 13年 9月 11日
9代	高橋文治郎	昭和 13年 9月 20日	昭和 16年 1月 16日
10代	室伏 武	昭和 16年 2月 3日	昭和 20年 2月 2日
11代	室伏 武	昭和 20年 2月 3日	昭和 21年 11月 24日
12代	湯山 正平	昭和 22年 4月 5日	昭和 26年 4月 4日
13代	湯山 正平	昭和 26年 4月 23日	昭和 30年 4月 22日
14代	湯山 正平	昭和 30年 5月 1日	昭和 34年 4月 30日
15代	鈴木 繁	昭和 34年 5月 1日	昭和 38年 4月 30日
16代	神成 昇造	昭和 38年 5月 1日	昭和 42年 4月 30日
17代	神成 昇造	昭和 42年 5月 1日	昭和 46年 4月 30日
18代	湯山 勝人	昭和 46年 5月 1日	昭和 50年 4月 30日
19代	湯山 勝人	昭和 50年 5月 1日	昭和 54年 4月 30日
20代	湯山 勝人	昭和 54年 5月 1日	昭和 58年 4月 30日
21代	高橋 春雄	昭和 58年 5月 1日	昭和 62年 4月 30日
22代	田代 和男	昭和 62年 5月 1日	平成 3年 4月 30日
23代	田代 和男	平成 3年 5月 1日	平成 7年 4月 30日
24代	長田 央	平成 7年 5月 1日	平成 11年 4月 30日
25代	長田 央	平成 11年 5月 1日	現 在

● 歴代議会議員

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	藤曲 鏡	昭和 22年 6月 13日	昭和 24年 6月 20日
2代	藤曲 鏡	昭和 24年 6月 20日	昭和 26年 4月 30日
3代	室伏 隆策	昭和 26年 5月 18日	昭和 28年 5月 4日
4代	室伏 隆策	昭和 28年 5月 4日	昭和 30年 4月 30日
5代	白井 幸雄	昭和 30年 5月 21日	昭和 32年 4月 29日
6代	白井 幸雄	昭和 32年 4月 29日	昭和 34年 4月 30日
7代	室伏 武	昭和 34年 5月 15日	昭和 36年 5月 2日
8代	室伏 武	昭和 36年 5月 2日	昭和 38年 4月 30日
9代	米山 孝	昭和 38年 5月 16日	昭和 40年 5月 11日
10代	米山 孝	昭和 40年 5月 11日	昭和 42年 4月 30日
11代	渡辺 俊雄	昭和 42年 5月 11日	昭和 44年 5月 12日
12代	渡辺 俊雄	昭和 44年 5月 12日	昭和 46年 4月 30日
13代	高村 一男	昭和 46年 5月 13日	昭和 48年 5月 8日
14代	湯山 匡	昭和 48年 5月 8日	昭和 50年 4月 30日
15代	高村 一男	昭和 50年 5月 10日	昭和 52年 5月 23日
16代	高村 一男	昭和 52年 5月 23日	昭和 54年 4月 30日
17代	代田 俊男	昭和 54年 5月 10日	昭和 56年 6月 8日
18代	鈴木 敏一	昭和 56年 6月 8日	昭和 58年 4月 30日
19代	代田 俊男	昭和 58年 5月 12日	昭和 60年 6月 4日
20代	代田 俊男	昭和 60年 6月 4日	昭和 62年 4月 30日
21代	代田 俊男	昭和 62年 5月 11日	平成 元年 6月 12日
22代	長田 璋	平成 元年 6月 12日	平成 3年 4月 30日
23代	芹沢 健一	平成 3年 5月 13日	平成 5年 4月 30日
24代	藤曲 恒	平成 5年 6月 3日	平成 7年 4月 30日
25代	遠藤 幸也	平成 7年 5月 15日	平成 9年 6月 5日
26代	杉山 昭雄	平成 9年 6月 5日	平成 11年 4月 30日
27代	藤曲 正幸	平成 11年 5月 17日	平成 13年 6月 5日
28代	白井 正	平成 13年 6月 5日	現 在

● 歴代収入役

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	鈴木 栄吉	大正 元年 10月 29日	大正 元年 12月 20日
2代	藤曲 芳邦	大正 元年 12月 26日	大正 5年 10月 29日
3代	岩田 功巧	大正 5年 10月 30日	大正 13年 10月 29日
4代	湯山 森寿	大正 13年 10月 30日	大正 14年 9月 8日
5代	尾崎 基	大正 14年 9月 15日	昭和 2年 9月 2日
6代	勝又 政信	昭和 2年 10月 22日	昭和 15年 9月 19日
7代	湯山 高男	昭和 15年 9月 22日	昭和 21年 11月 23日
8代	岩田 久作	昭和 23年 2月 13日	昭和 35年 2月 12日
9代	湯山 正一	昭和 37年 3月 23日	昭和 53年 3月 22日
10代	池谷 典男	昭和 54年 7月 5日	昭和 58年 7月 4日
11代	長田 孝男	昭和 58年 7月 5日	昭和 62年 7月 4日
12代	長田 孝男	昭和 62年 7月 11日	平成 3年 7月 10日
13代	尾崎孝太郎	平成 3年 7月 11日	平成 7年 7月 10日
14代	池谷 惇	平成 7年 7月 11日	平成 11年 7月 10日
15代	高橋 宏	平成 11年 7月 11日	現 在

● 歴代助役

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	室伏 完	大正 元年 10月 25日	大正 5年 10月 24日
2代	中村兼次郎	大正 元年 11月 12日	大正 5年 11月 12日
3代	藤曲 芳邦	大正 5年 10月 30日	大正 9年 10月 29日
4代	中村兼次郎	大正 5年 11月 15日	大正 9年 11月 14日
5代	岩田 歌吉	大正 9年 11月 3日	大正 13年 11月 2日
6代	中村兼次郎	大正 9年 11月 15日	大正 10年 5月 22日
7代	高橋文治郎	大正 12年 11月 24日	昭和 2年 11月 23日
8代	岩田 歌吉	大正 13年 11月 3日	大正 13年 12月 25日
9代	岩田駒次郎	昭和 3年 2月 10日	昭和 6年 2月 9日
10代	高橋文治郎	昭和 3年 2月 12日	昭和 4年 10月 11日
11代	高橋文治郎	昭和 4年 12月 6日	昭和 8年 11月 7日
12代	池谷 治郎	昭和 8年 12月 13日	昭和 12年 12月 12日
13代	室伏 武	昭和 8年 12月 13日	昭和 11年 10月 31日
14代	池谷 貞治	昭和 12年 12月 13日	昭和 16年 12月 12日
15代	池谷 貞治	昭和 16年 12月 13日	昭和 20年 12月 12日
16代	岩田 董平	昭和 21年 1月 21日	昭和 23年 3月 12日
17代	池谷 貞治	昭和 23年 9月 29日	昭和 27年 9月 28日
18代	池谷 貞治	昭和 27年 9月 29日	昭和 28年 11月 28日
19代	藤曲 鏡	昭和 29年 1月 4日	昭和 33年 1月 3日
20代	藤曲 鏡	昭和 33年 1月 4日	昭和 37年 1月 3日
21代	室伏 隆策	昭和 37年 2月 26日	昭和 41年 2月 25日
22代	室伏 隆策	昭和 41年 3月 26日	昭和 43年 11月 19日
23代	湯山 寅一	昭和 44年 3月 5日	昭和 48年 3月 4日
24代	湯山 寅一	昭和 48年 4月 12日	昭和 51年 4月 10日
25代	岩田 孝介	昭和 54年 7月 5日	昭和 58年 7月 4日
26代	岩田 孝介	昭和 58年 7月 5日	昭和 62年 7月 4日
27代	藤曲 秀夫	昭和 62年 7月 11日	平成 3年 7月 10日
28代	藤曲 秀夫	平成 3年 7月 11日	平成 7年 7月 10日
29代	岩田 功	平成 7年 7月 11日	平成 11年 7月 10日
30代	岩田 功	平成 11年 7月 11日	現 在

● 歴代議会副議長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	室伏 隆策	昭和 22年 6月 13日	昭和 24年 6月 20日
2代	室伏 隆策	昭和 24年 6月 20日	昭和 26年 4月 30日
3代	勝又竹三郎	昭和 26年 5月 18日	昭和 28年 5月 4日
4代	勝又 光一	昭和 28年 5月 4日	昭和 29年 9月 30日
5代	白井 幸雄	昭和 29年 9月 30日	昭和 30年 4月 30日
6代	尾崎 幸雄	昭和 30年 5月 21日	昭和 32年 4月 29日
7代	小林 武志	昭和 32年 4月 29日	昭和 34年 4月 30日
8代	米山 綱雄	昭和 34年 5月 15日	昭和 36年 5月 2日
9代	米山 孝	昭和 36年 5月 2日	昭和 38年 4月 30日
10代	白井 武男	昭和 38年 5月 16日	昭和 40年 5月 11日
11代	瀬戸 正春	昭和 40年 5月 11日	昭和 42年 4月 30日
12代	勝又 茂雄	昭和 42年 5月 12日	昭和 44年 5月 12日
13代	高田 周作	昭和 44年 5月 12日	昭和 46年 4月 30日
14代	猪股 喜則	昭和 46年 5月 13日	昭和 48年 5月 8日
15代	猪股 喜則	昭和 48年 5月 8日	昭和 50年 4月 30日
16代	室伏 久徳	昭和 50年 5月 10日	昭和 52年 5月 23日
17代	代田 俊男	昭和 52年 5月 23日	昭和 54年 4月 30日
18代	白井 徳雄	昭和 54年 5月 10日	昭和 56年 6月 8日
19代	岩田 実	昭和 56年 6月 8日	昭和 58年 4月 30日
20代	石井 東一	昭和 58年 5月 12日	昭和 60年 6月 4日
21代	長田 育造	昭和 60年 6月 4日	昭和 62年 4月 30日
22代	望月千治郎	昭和 62年 5月 11日	平成 元年 6月 12日
23代	高村 豊	平成 元年 6月 12日	平成 3年 4月 30日
24代	小野 智弘	平成 3年 5月 13日	平成 5年 4月 30日
25代	湯山 光高	平成 5年 6月 3日	平成 7年 4月 30日
26代	高橋 穂積	平成 7年 5月 15日	平成 9年 6月 5日
27代	白井 正	平成 9年 6月 5日	平成 11年 4月 30日
28代	池谷 良郎	平成 11年 5月 17日	平成 13年 6月 5日
29代	高田 静雄	平成 13年 6月 5日	現 在

● 歴代教育長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	尾崎 幸雄	昭和 37年 3月 13日	昭和 49年 3月 12日
2代	池谷 典男	昭和 49年 3月 23日	昭和 53年 3月 22日
3代	渡辺 諄一	昭和 53年 4月 20日	昭和 55年 9月 30日
4代	天野 隆	昭和 55年 12月 10日	昭和 63年 11月 30日
5代	稲 鈿泰	昭和 63年 12月 1日	平成 4年 11月 30日
6代	嶋田 實雄	平成 4年 12月 1日	平成 9年 4月 1日
7代	岩田 正憲	平成 9年 4月 15日	平成 12年 11月 30日
8代	岩田 正憲	平成 12年 12月 1日	現 在

主な施設一覧

(市外局番：0550)

● 役場・支所

施設名	所在地	電話
小山町役場本庁	小山町藤曲57-2	76-1111(代)
北郷支所	小山町用沢188-1	78-0502
須走支所	小山町須走267-6	75-2211
足柄支所	小山町竹之下228-2	76-0134

● 保健・医療・福祉・衛生

施設名	所在地	電話
小山町健康福祉会館 (ふじみセンター)	小山町小山75-7	76-6666
救急医療センター	御殿場市西田中237-1	83-1111
老人ホーム福寿荘	小山町菅沼1839-3	78-0559
老人福祉センター	小山町菅沼1839-1	78-0512
いきど保育園	小山町生土132-1	76-0423
すがぬま保育園	小山町菅沼1074-1	76-0429
きたごう保育園	小山町用沢169-1	78-0456
すばしり保育園	小山町須走153	75-2720
小山町社会福祉協議会	小山町小山75-7	76-9906
斎場	御殿場市萩原992-98	89-0949
衛生センター	御殿場市中丸19	82-1991
RDFセンター	小山町桑木445-1	76-6200

● 幼稚園・学校

施設名	所在地	電話
小山幼稚園	小山町小山289-1	76-0479
駿河幼稚園	小山町菅沼721-1	76-4302
足柄幼稚園	小山町竹之下2430	76-0584
北郷幼稚園	小山町用沢207-1	78-0504
須走幼稚園	小山町須走83	75-2710
成美小学校	小山町藤曲150	76-0063
明倫小学校	小山町菅沼627	76-0064
足柄小学校	小山町竹之下2411-1	76-0327
北郷小学校	小山町用沢604-1	78-0520
須走小学校	小山町須走70-18	75-2730
小山中学校	小山町藤曲142	76-0154
北郷中学校	小山町用沢355	78-0514
須走中学校	小山町須走99-1	75-2004
県立小山高校	小山町竹之下369	76-1188

● 社会教育

施設名	所在地	電話
総合文化会館	小山町阿多野130	76-5700(代)
中央公民館	小山町藤曲577	76-1293
町立体育館	小山町藤曲577	76-1293
青少年会館	小山町用沢345-1	78-0521
児童館	小山町藤曲577	76-1293
図書館	小山町阿多野130	76-4270
総合体育館	小山町阿多野125	76-5708
小山球場	小山町阿多野35	76-3600

● 消防・警察

施設名	所在地	電話
行政組合消防本部	御殿場市東田中1-19-1	83-0119
小山消防署	小山町菅沼359-2	76-0119
小山消防署須走分署	小山町須走293-1	75-2001
御殿場警察署	御殿場市北久原439-2	84-0110
小山交番	小山町小山90-7	76-1142
菅沼駐在所	小山町菅沼501-7	76-1617
足柄駐在所	小山町竹之下226	76-6071
北郷駐在所	小山町用沢184-1	78-0511
須走交番	小山町須走288-4	75-2063

● 郵便局

施設名	所在地	電話
駿河小山郵便局	小山町菅沼361-2	76-1001
金太郎郵便局	小山町小山89-82	76-0993
小山菅沼郵便局	小山町菅沼994-5	76-0998
足柄駅前郵便局	小山町竹之下1312-5	76-0997
北郷郵便局	小山町用沢187-1	78-0001
須走郵便局	小山町須走16-14	75-2003

● その他

施設名	所在地	電話
御殿場市・小山町広域行政組合事務所	御殿場市萩原483	82-4623
陸上自衛隊富士学校	小山町須走481-27	75-2311
小山町商工会	小山町小山96-2	76-1100
小山町観光協会(観光案内所)	小山町小山599-5	76-5000
小山町シルバー人材センター	小山町菅沼1839-1	78-0011
御殿場健康福祉センター(御殿場保健所)	御殿場市竈1113	82-1222
静岡地方法務局御殿場出張所	御殿場市萩原576-3	82-0663